



2026年3月期第3四半期 決算説明資料

2026年2月

株式会社NexTone

東証グロース コード：7094

目次

①	エグゼクティブサマリー	3
②	2026年3月期第3四半期 決算概要	4
③	中期業績計画（2026/3期～2028/3期）	22
④	APPENDIX	29

IRに関連する
Q&A一覧はこちら



エグゼクティブサマリー

2026年3月期第3四半期 業績ハイライト

- ✓ 主力事業の伸長により前年同期比で増収、営業利益は増収効果及びコストコントロールが奏功し**大幅増益**。
- ✓ 事業基盤となる管理楽曲数及び取扱原盤数はともに着実に増加。

取扱高

287.2

(億円)

前年同期比 **+9.2%**

売上高

153.0

(億円)

前年同期比 **+7.4%**

営業利益

8.8

(億円)

前年同期比 **+52.6%**

管理楽曲数

79.1

(万曲)

前年同期比 **+14.7** (万曲)

前期末比 **+10.0** (万曲)

取扱原盤数

164.8

(万原盤)

前年同期比 **+22.4** (万原盤)

前期末比 **+17.8** (万原盤)

2026年3月期第3四半期 決算概要

2026年3月期第3四半期 決算概要

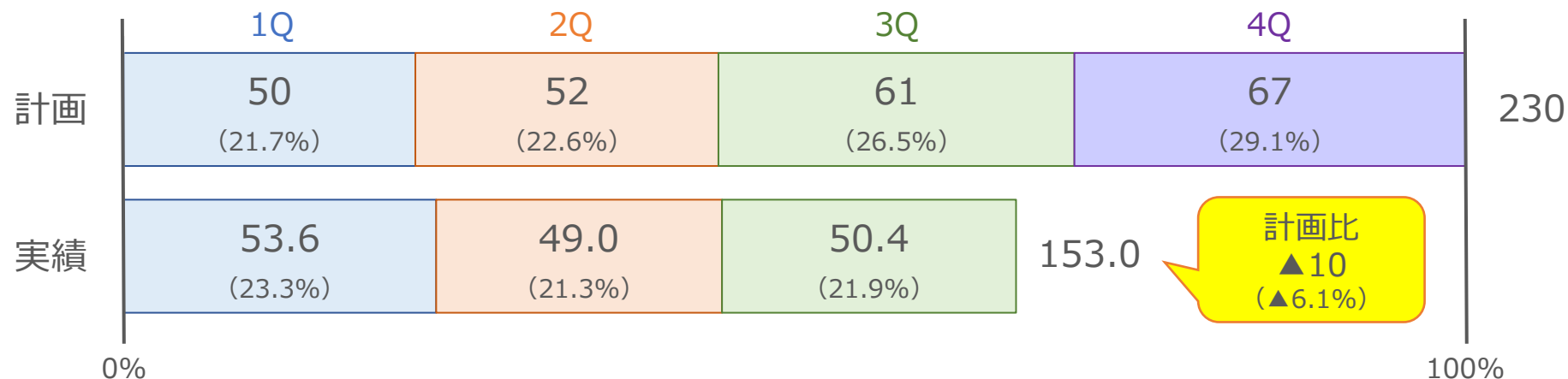
✓ 音楽関連市場の拡大を背景に堅調に推移し、前年同期比で**増収増益**。営業利益率は大幅改善。

(億円)	2025/3期	2026/3期	前年同期比		2025/3期	2026/3期
	3Q	3Q	増減	増減率	通期	通期計画
売上高	142.5	153.0	+ 10.5	+ 7.4%	194.1	230
販管費	29.0	29.8	+ 0.8	+ 2.8%	38.2	43
営業利益	5.8	8.8	+ 3.0	+ 52.6%	10.0	18
経常利益	6.0	9.0	+ 3.0	+ 50.7%	10.2	18
親会社株主帰属 当期純利益	4.2	5.6	+ 1.4	+ 33.6%	6.9	12
営業利益率	4.1%	5.8%	+ 1.7pt	—	5.2%	7.8%
管理楽曲数 (万曲)	64.4	79.1	+ 14.7	+ 22.8%	69.1	79
取扱原盤数 (万原盤)	142.4	164.8	+ 22.4	+ 15.7%	147.0	175

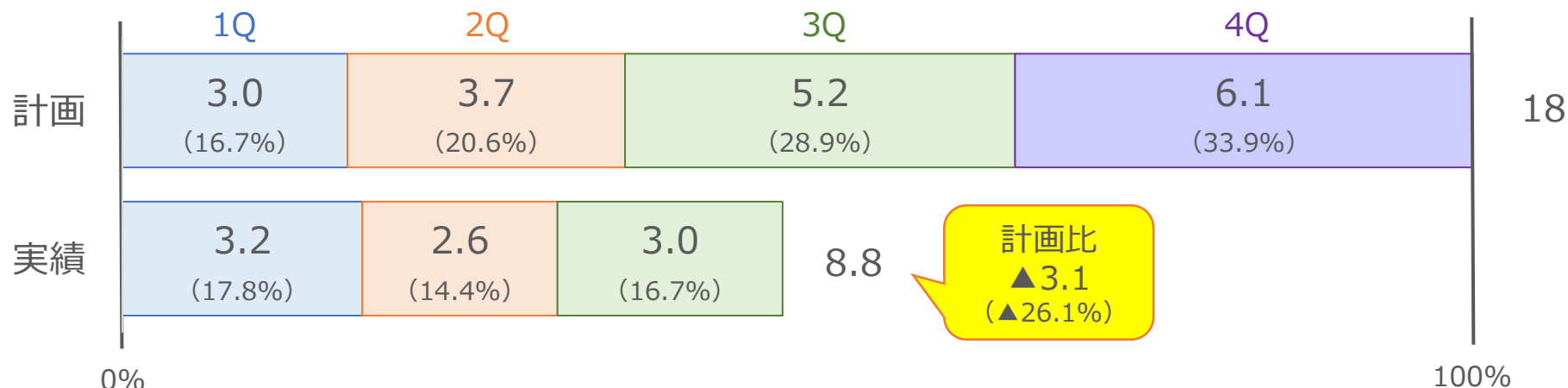
四半期毎業績推移①

- ✓ 著作権管理事業及びDD事業の配信に係る取扱高が計画を下回っている事等が影響し、売上・利益とも3Q時点の計画未達。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



四半期毎業績推移②

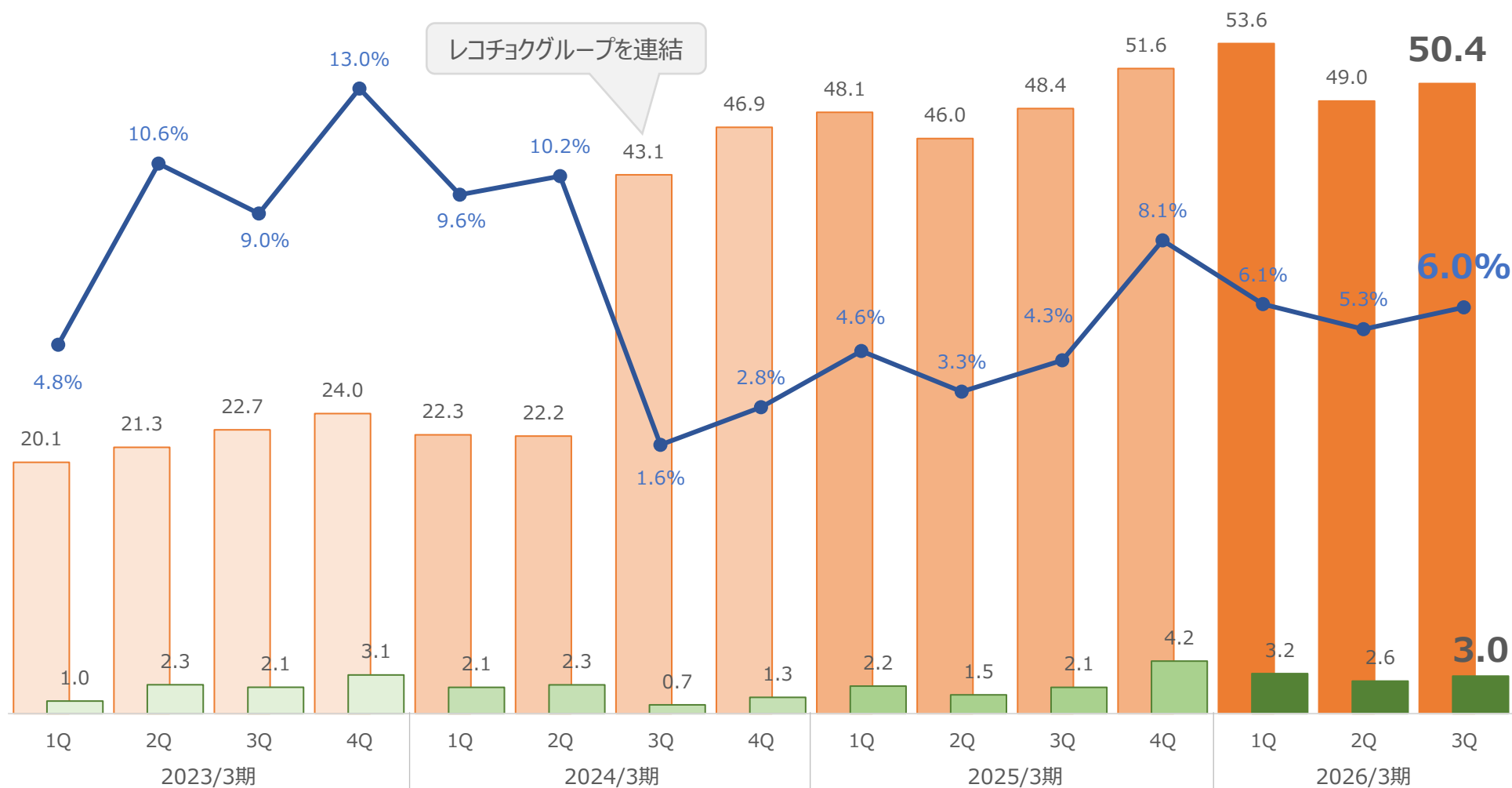
✓ 売上高は拡大を継続、営業利益は増加基調で推移。

(単位：億円)

売上高

営業利益

営業利益率



セグメント別業績 (1/4) ■ 著作権管理事業

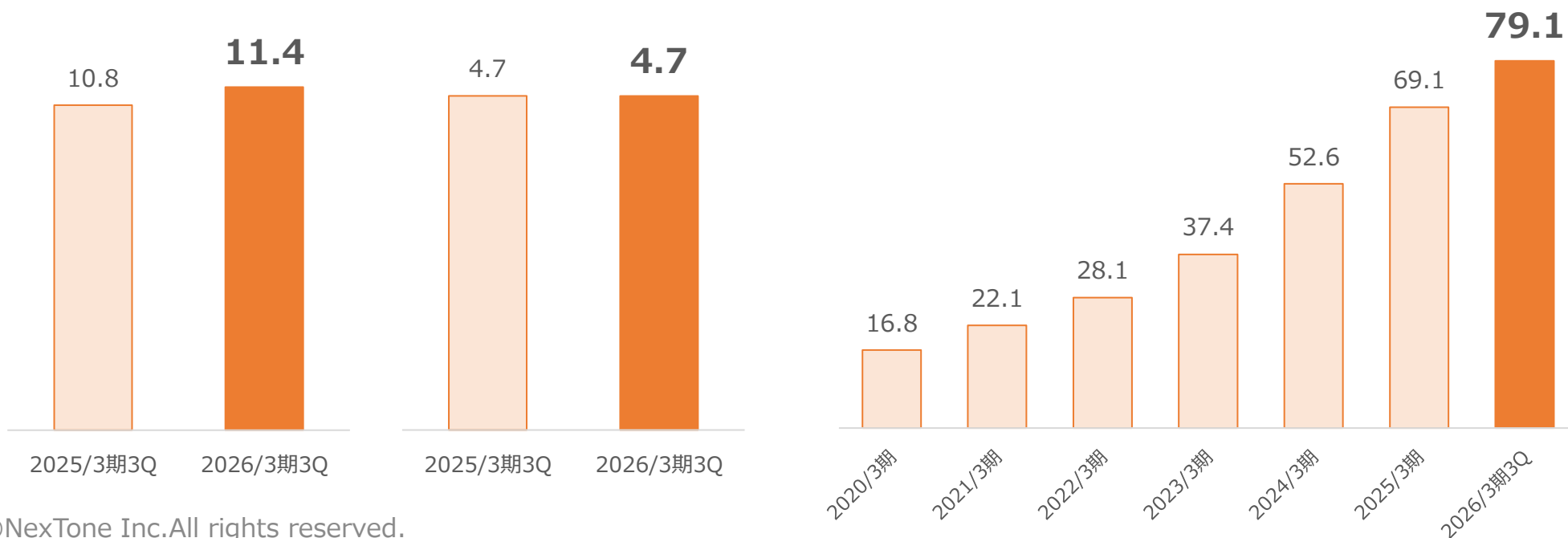
- ✓ 全世界のYouTube動画視聴における使用料の直接徴収や、各国の著作権管理事業者との直接契約拡大等により前年同期比で増収。徴収区分のミックスの変化とシステムと人材への投資増加により営業利益は横ばい。
- ✓ 著作権管理楽曲数は順調に増加。

(億円)	2025/3期	2026/3期	前年同期比		2025/3期	2026/3期
	3Q	3Q	増減	増減率	通期	通期計画
売上高	10.8	11.4	+0.6	+5.7%	15.2	19.2
営業利益	4.7	4.7	±0	—	6.9	8.9

売上高 (億円)

営業利益 (億円)

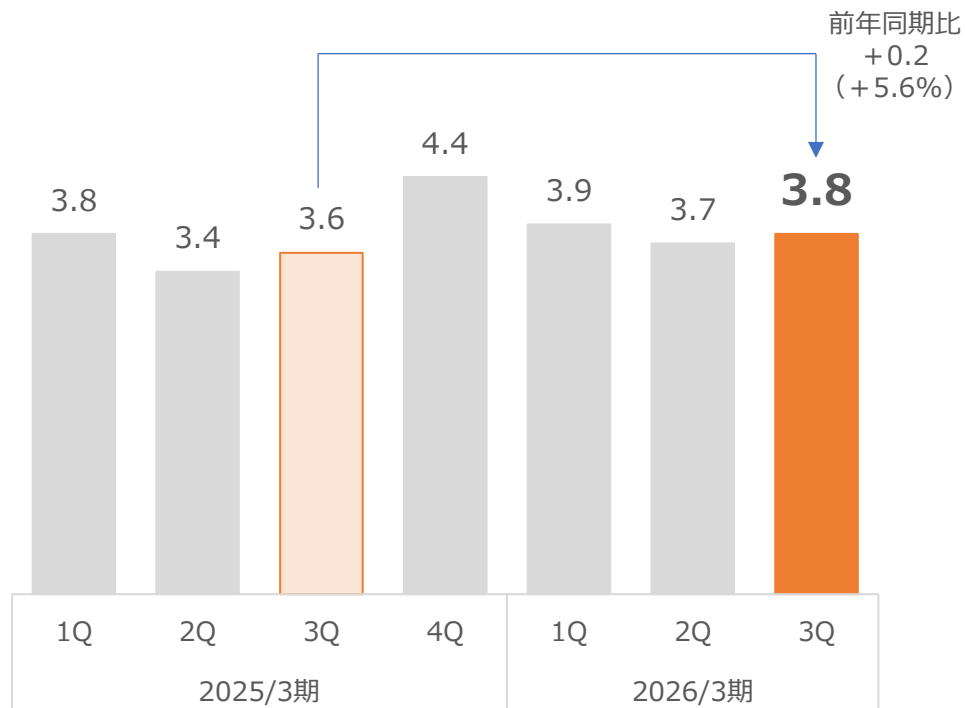
著作権管理楽曲数 (万曲)



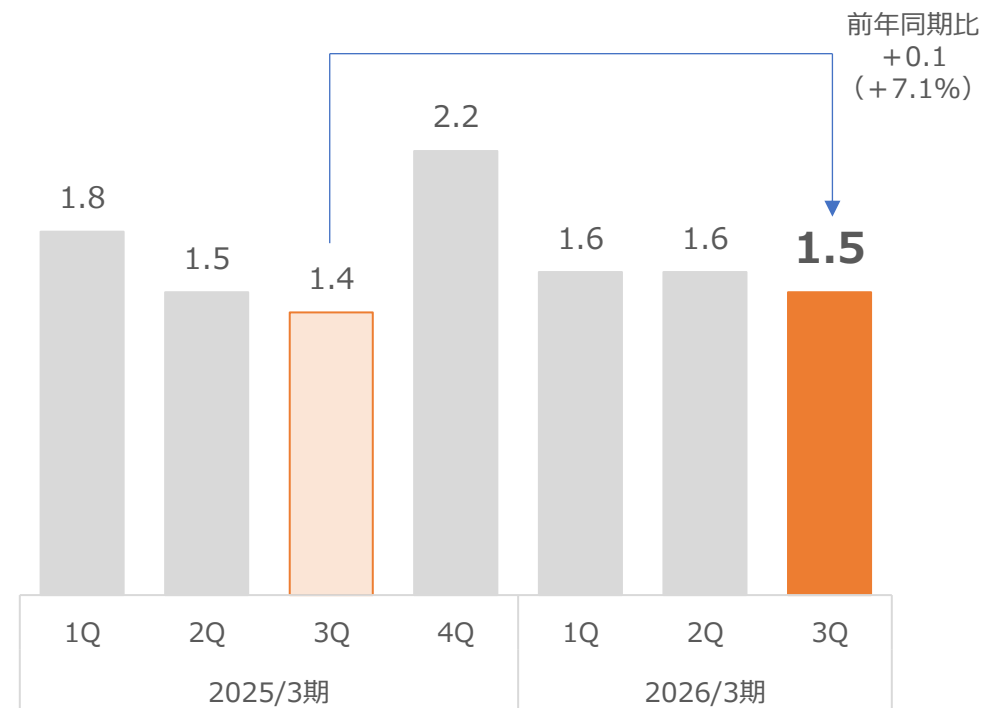
四半期業績推移 ■ 著作権管理事業

(億円)	2025/3期				2026/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	3.8	3.4	3.6	4.4	3.9	3.7	3.8
営業利益	1.8	1.5	1.4	2.2	1.6	1.6	1.5

売上高 四半期推移 (億円)

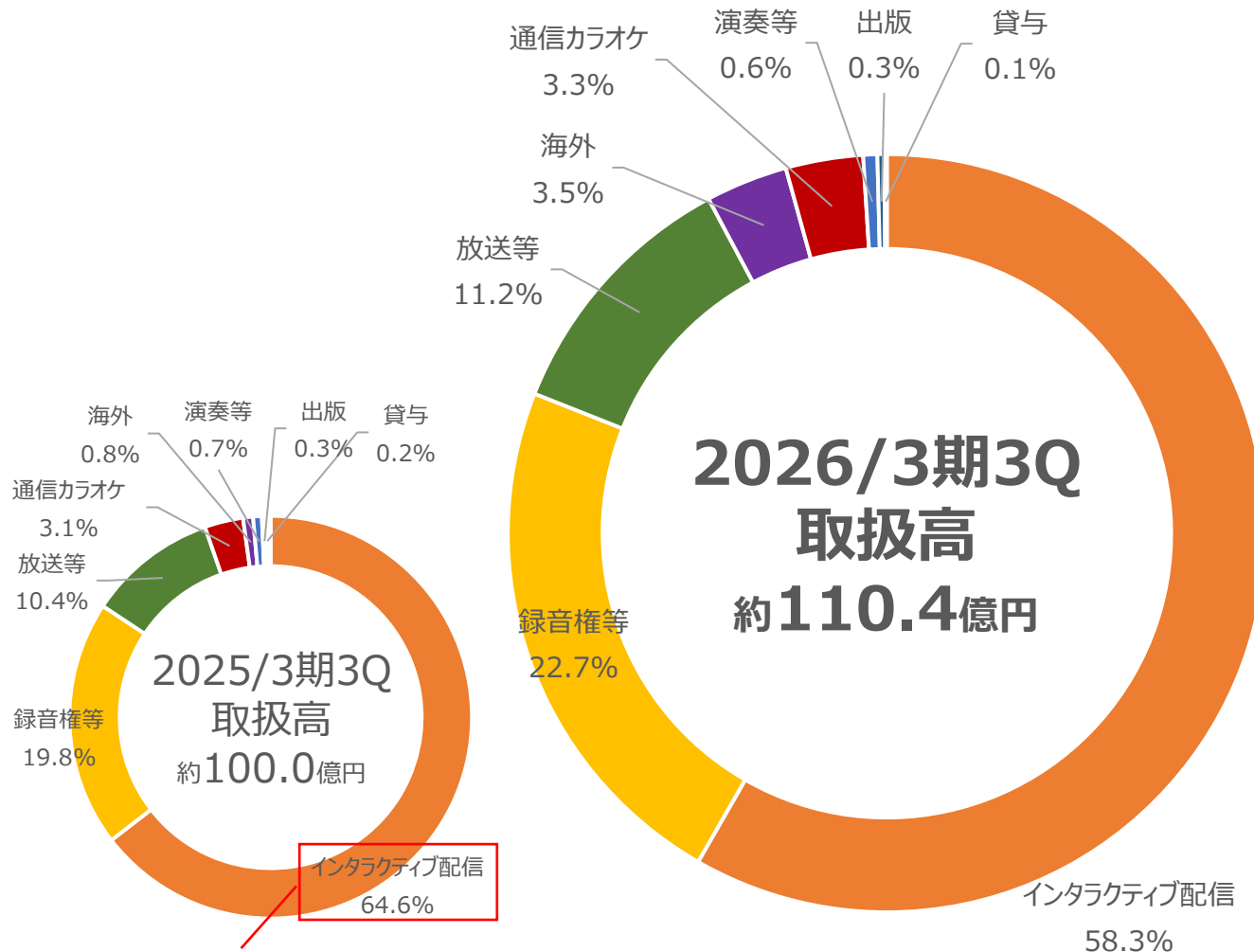


営業利益 四半期推移 (億円)

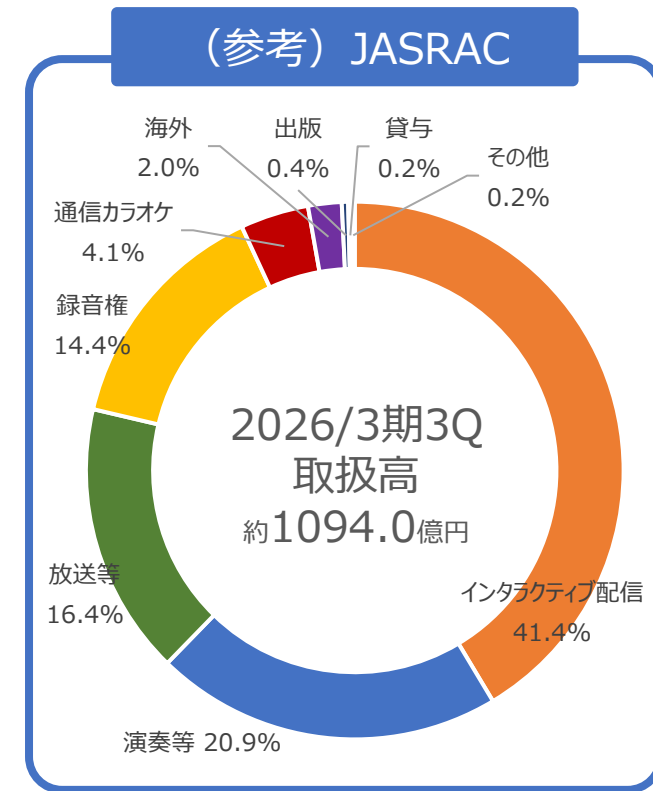


取扱高内訳推移

- ✓ 著作権管理事業における取扱高のうち「録音権等」「放送等」「海外」等の割合が前年同期比で増加。



前期第1四半期限りの特殊要因として一部配信事業者への遡及徴収（取扱高ベースで3.9億円）を実施

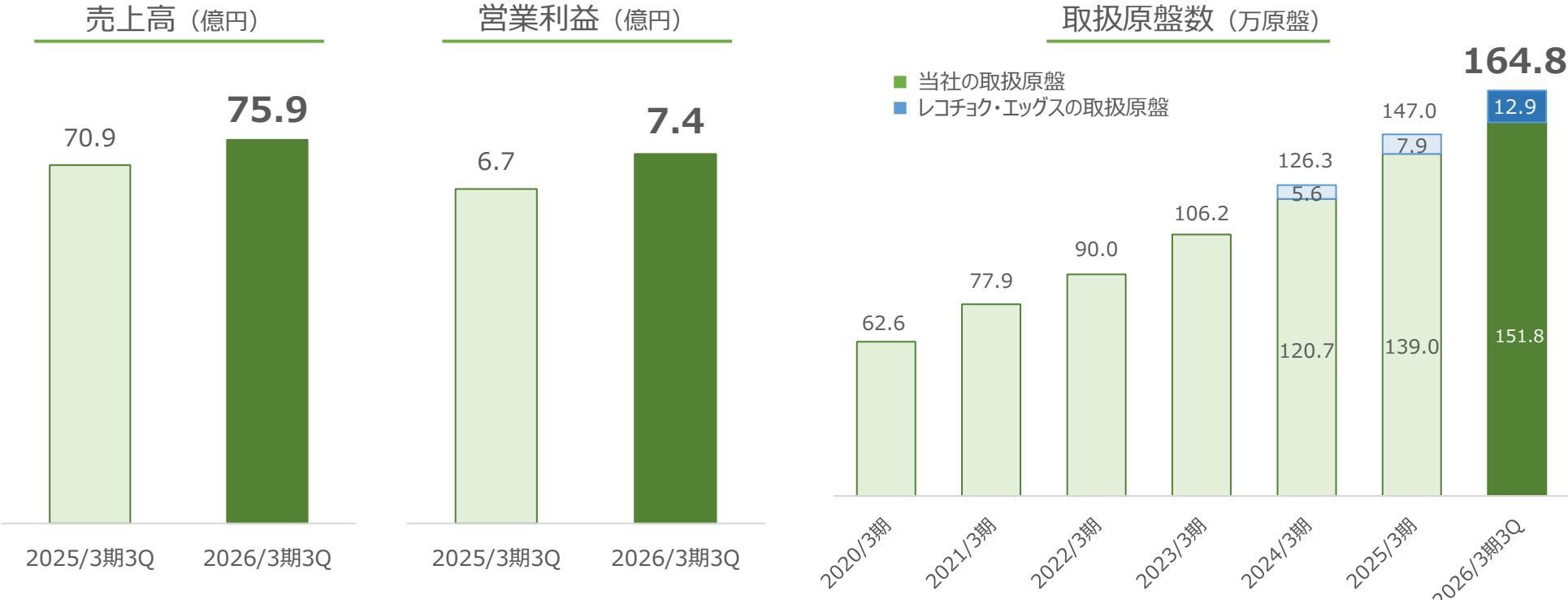


参考：一般社団法人日本音楽著作権協会
2025年度第3四半期報告発表資料

セグメント別業績 (2/4) ■ DD (デジタルコンテンツディストリビューション) 事業

✓ ストリーミング音楽配信市場と動画配信サービス市場の伸長等により前年同期比で増収増益。

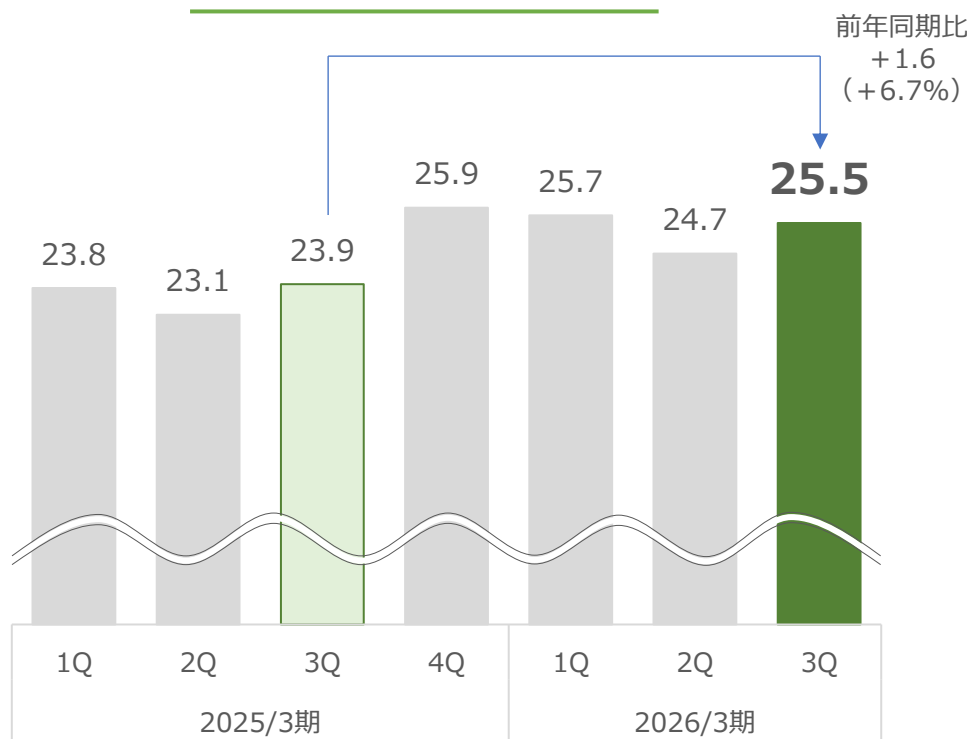
(億円)	2025/3期	2026/3期	前年同期比		2025/3期	2026/3期
	3Q	3Q	増減	増減率	通期	通期計画
売上高	70.9	75.9	+5.0	+7.1%	96.8	125.3
営業利益	6.7	7.4	+0.7	+10.7%	9.6	12.5



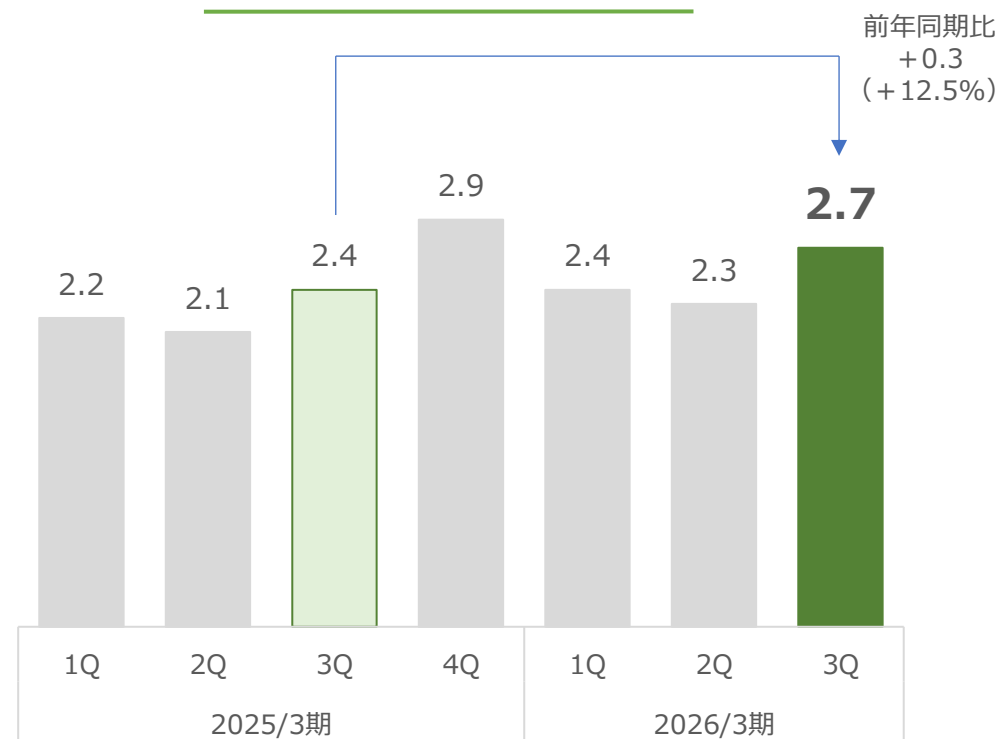
四半期業績推移 ■ DD (デジタルディストリビューション) 事業

(億円)	2025/3期				2026/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	23.8	23.1	23.9	25.9	25.7	24.7	25.5
営業利益	2.2	2.1	2.4	2.9	2.4	2.3	2.7

売上高 四半期推移 (億円)



営業利益 四半期推移 (億円)



セグメント別業績 (3/4)

■ 音楽配信事業

- ✓ 個人向けサービス「dヒッツ」のサービス料金の改定と法人向けサービスの拡大により、前年同期比で増収増益。
- ✓ 2025年6月より新たに提供を開始した「レコチョク play」は順調に導入店舗拡大。

(億円)	2025/3期	2026/3期	前年同期比		2025/3期	2026/3期
	3Q	3Q	増減	増減率	通期	通期計画
売上高	55.9	57.9	+ 2.0	+ 3.6%	75.8	75.1
営業利益	9.7	11.9	+ 2.2	+ 22.6%	13.3	14.8

カラオケ法人向け「レコチョク play」



- サービス名称：レコチョク play（レコチョクプレイ）
- 提供内容：カラオケ歌唱を前提とした法人向け原盤利用許諾スキーム

<2025年6月30日>

コシダカデジタル「E-bo」
コシダカ社運営「まねきねこ」
1都3県の約**200店舗**にて
導入開始

<2025年9月>

全国約700店舗中
約400店舗
に導入拡大

<2025年12月>

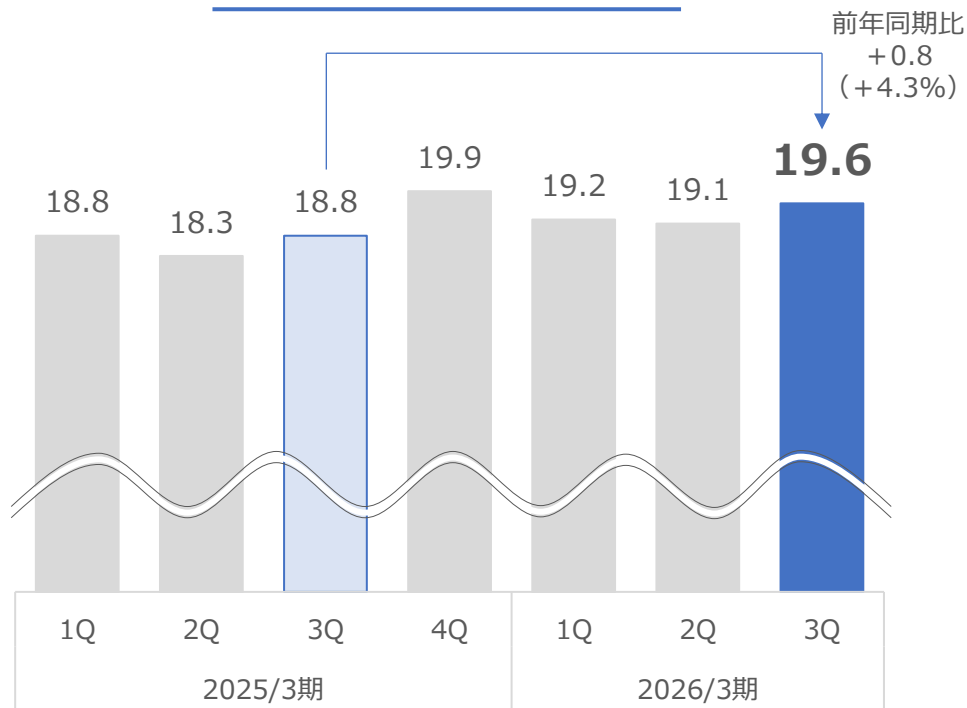
全国約770店舗中
705店舗
に導入拡大

その他のカラオケ機器メーカーとの取引に向けて現在協議中

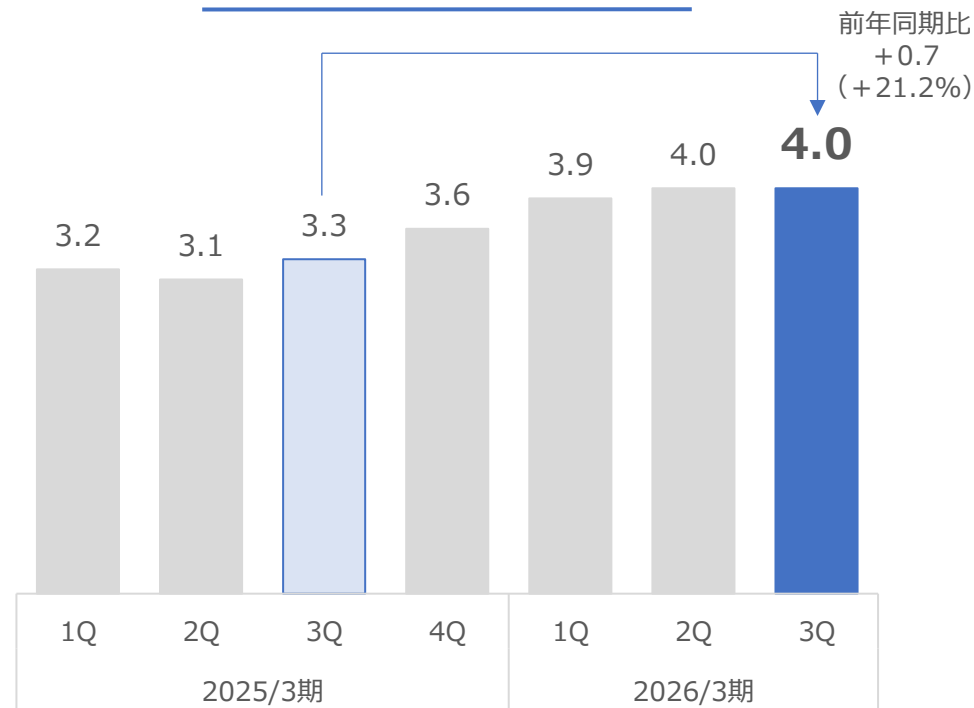
四半期業績推移 ■ 音楽配信事業

(億円)	2025/3期				2026/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	18.8	18.3	18.8	19.9	19.2	19.1	19.6
営業利益	3.2	3.1	3.3	3.6	3.9	4.0	4.0

売上高 四半期推移 (億円)



営業利益 四半期推移 (億円)



セグメント別業績 (4/4)

■ ビジネスサポート事業

- ✓ 当社のキャスティング事業でライブビューイングの案件を複数実施したこと等により前年同期比で増収。

(億円)	2025/3期	2026/3期	前年同期比		2025/3期	2026/3期
	3Q	3Q	増減	増減率	通期	通期計画
売上高	11.4	14.2	+2.8	+24.4%	14.9	26.3
営業利益	▲3.2	▲2.9	+0.3	—	▲4.2	▲1.8

キャスティング事業 実績例

ライブビューイングサポート

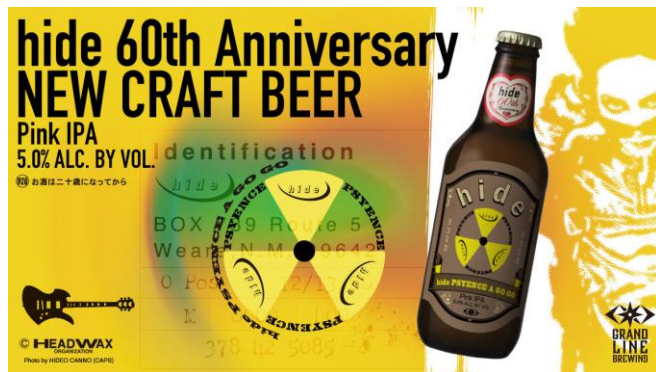
TAEMIN



12月25日にGLION ARENA KOBEで開催された「2025 TAEMIN ARENA TOUR 'Veil」を全国の映画館に同時生中継したライブビューイングをサポート

その他サポート

hideオリジナルBEER

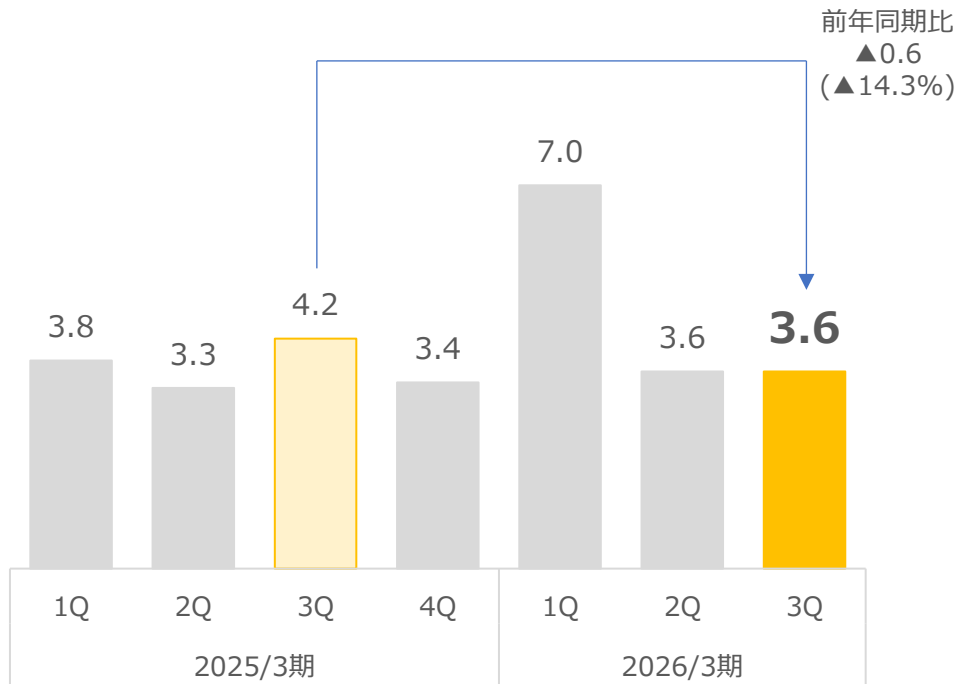


12月13日にCLUB CITTA'で開催された「hide Birthday Party 2025」にて販売したオリジナルクラフトビールの製造・提供をサポート

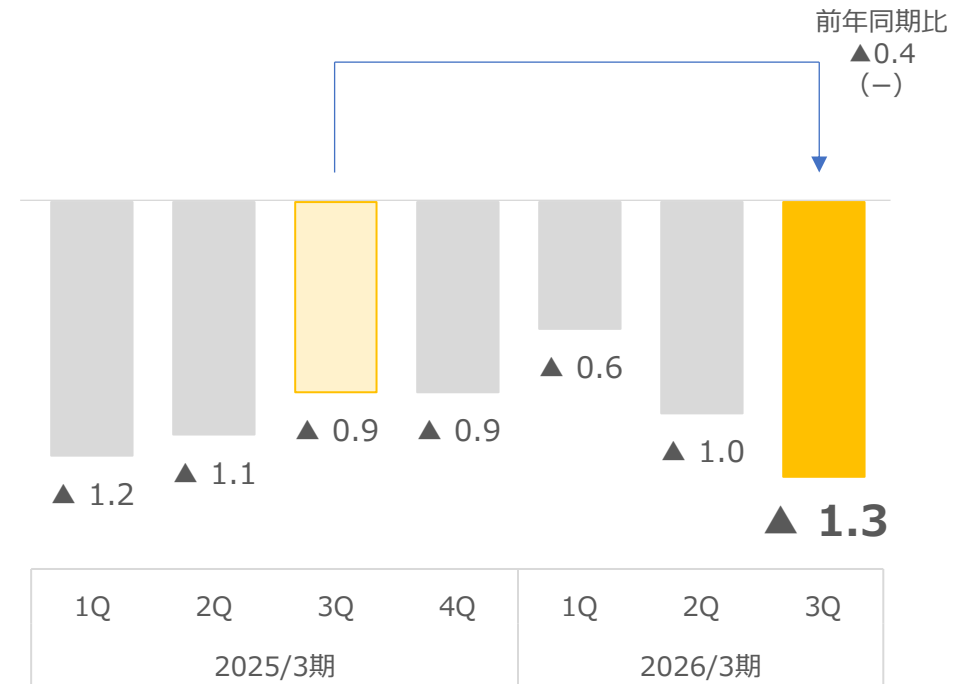
四半期業績推移 ■ ビジネスサポート事業

(億円)	2025/3期				2026/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	3.8	3.3	4.2	3.4	7.0	3.6	3.6
営業利益	▲1.2	▲1.1	▲0.9	▲0.9	▲0.6	▲1.0	▲1.3

売上高 四半期推移 (億円)



営業利益 四半期推移 (億円)

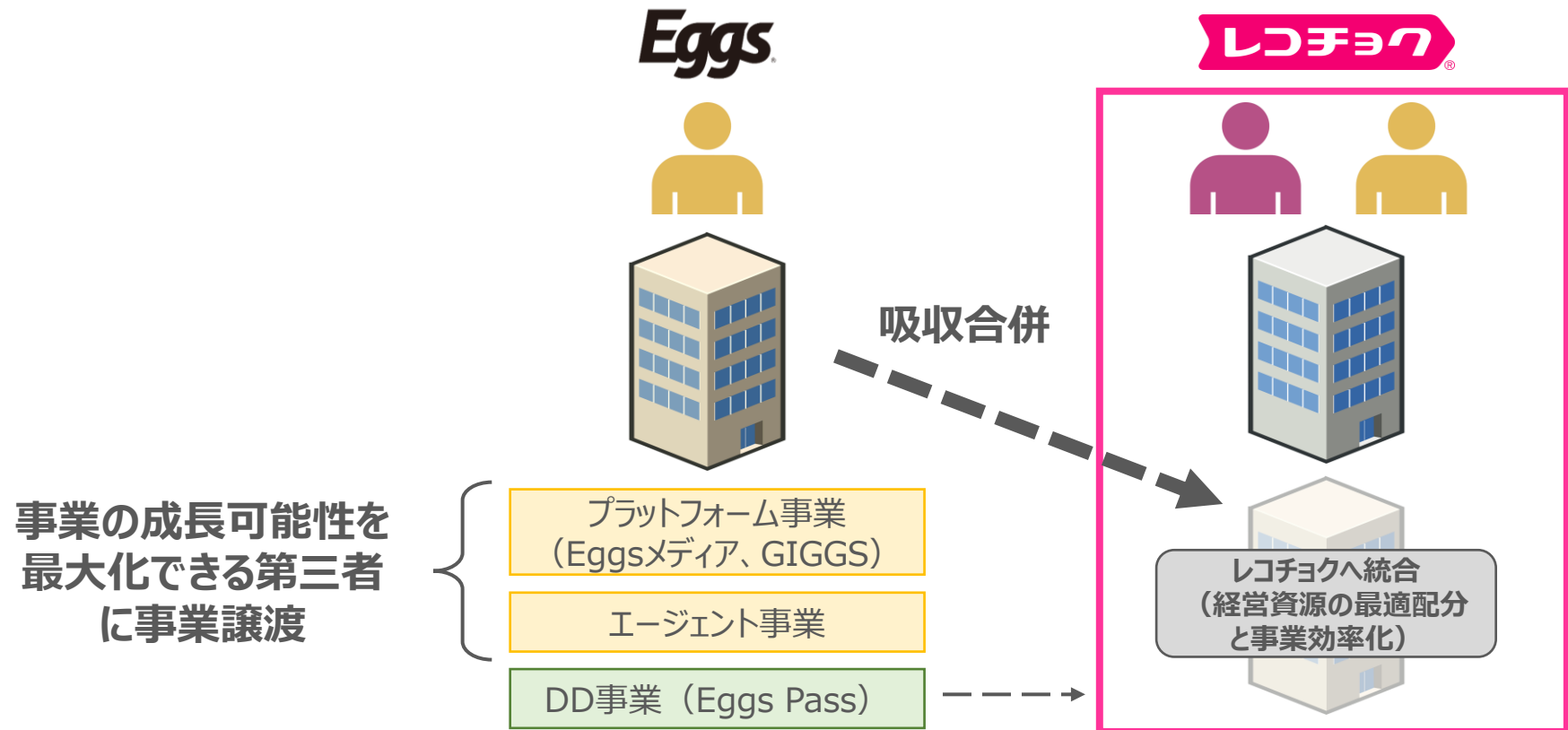


連結子会社における事業譲渡・吸収合併方針

✓ 当社の連結子会社であるエッグスが運営するプラットフォーム事業及びエージェント事業を第三者に譲渡する方針、並びに当社の連結子会社であるレコチョク及びエッグスの2社が、2026年4月1日付でレコチョクを存続会社とする吸収合併を行う方針を2025年12月開催の取締役会にて決議。

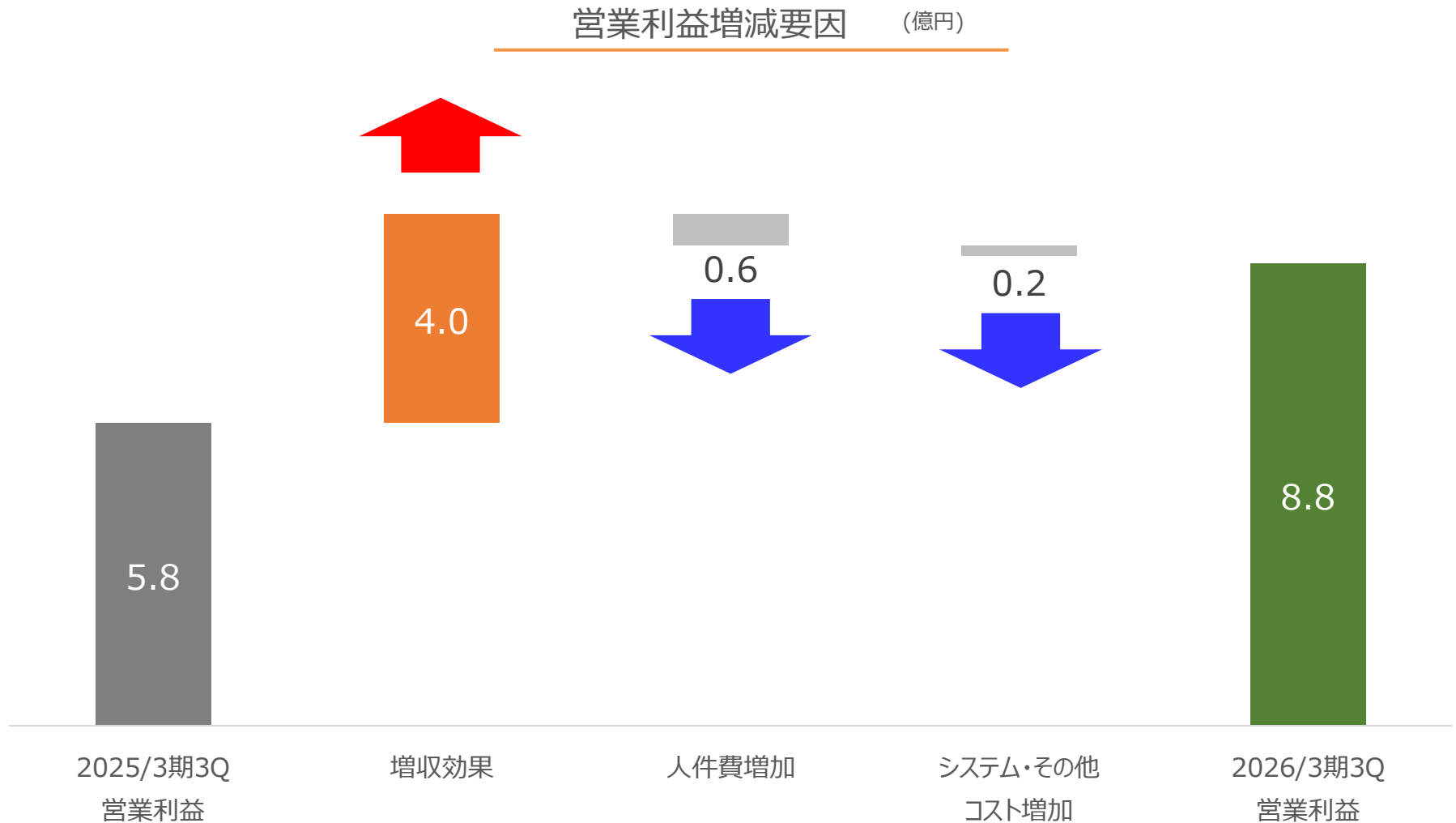
(2025年12月25日 適時開示)

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS06583/772f6741/0ecb/4149/934b/3bf285f26386/140120251224525849.pdf>



営業利益増減要因

- ✓ 人件費やシステム費・その他コストの増加を増収効果が吸収して増益。

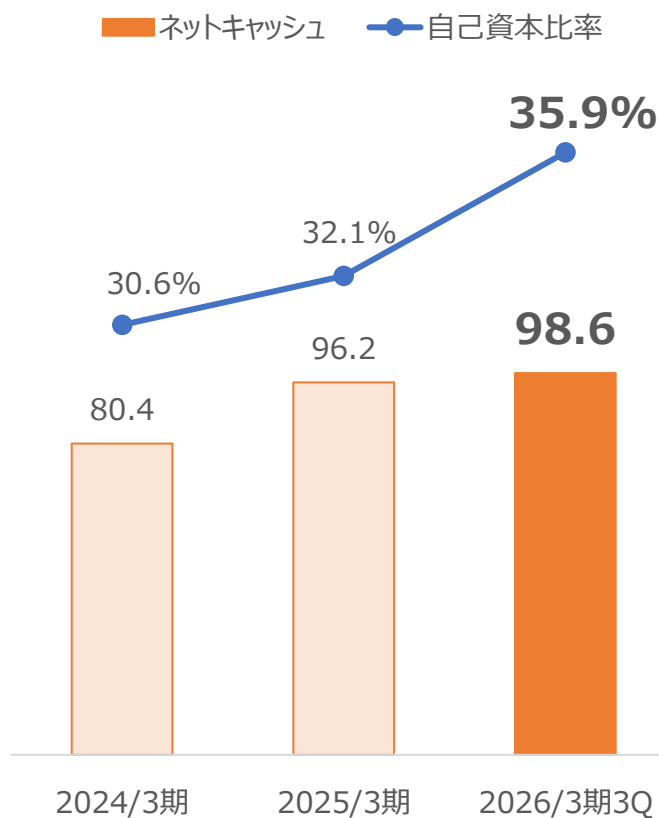


バランスシートの状況

- ✓ プライム市場上場基準「純資産50億円以上」を充足。
- ✓ 無借金経営を継続。ネットキャッシュは約98億円。今後も成長のための人員・システムへの投資、M&A含め将来の事業拡大と音楽業界活性化につながる投資、株主還元を引き続き検討。

(億円)	2024/3期	2025/3期	2026/3期 3Q	前期末比 増減
流動資産	103.4	122.7	122.5	▲0.2
現預金	80.4	96.2	98.6	+2.4
売掛債権	16.0	17.4	16.8	▲0.6
固定資産	28.9	25.5	26.3	+0.8
無形固定資産	20.7	17.8	18.9	+1.1
総資産	132.3	148.3	148.9	+0.6
負債	80.8	91.1	85.4	▲5.7
買入債務	29.7	34.3	31.2	▲3.1
未払金	37.8	43.3	44.1	+0.8
純資産	51.5	57.1	63.4	+6.3
負債純資産合計	132.3	148.3	148.9	+0.6

財務状況の推移 (億円)



※ 2025年3月期2Qにおいて企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2024年3月期の数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

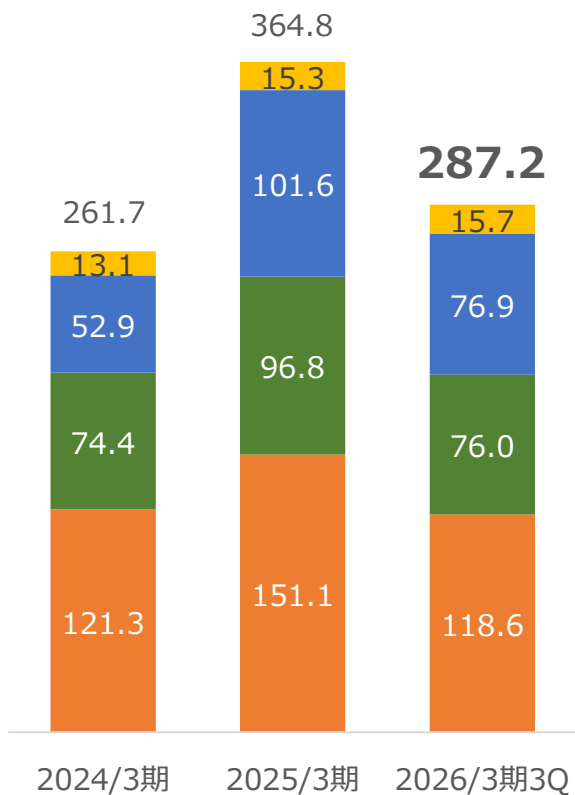
中期業績推移

- ✓ 取扱高、売上高、経常利益は、音楽配信市場の拡大と著作権管理楽曲数及び取扱原盤数の増加を背景に拡大。

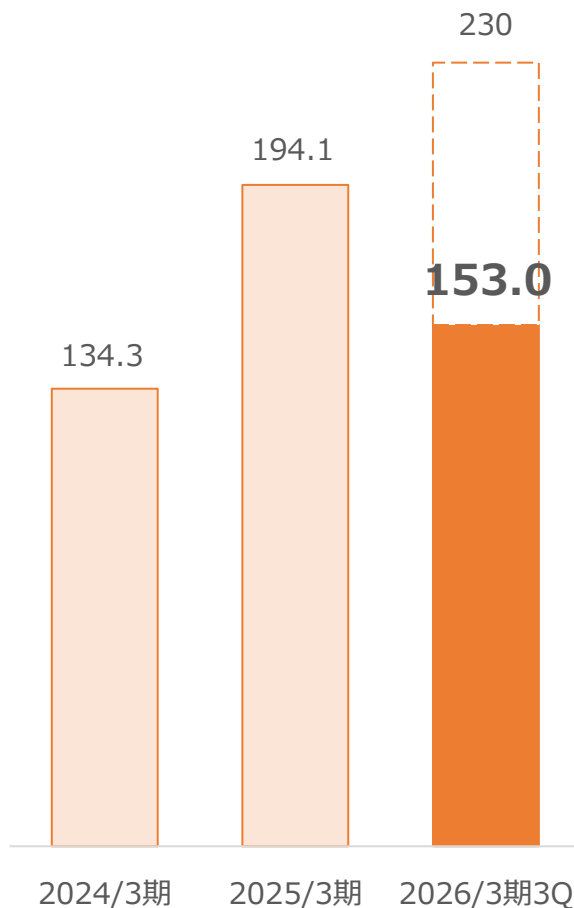
取扱高 (億円)

著作権管理：取扱高＝徴収額
(売上には当社手数料分のみを計上)

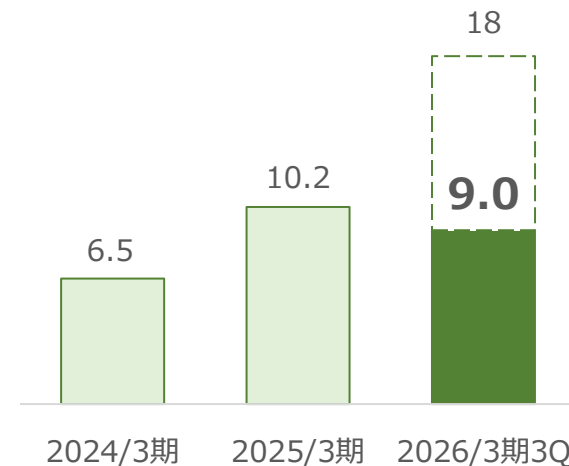
■ 著作権管理 ■ DD ■ 音楽配信 ■ ビジネスサポート・調整



売上高 (億円)



経常利益 (億円)



従業員数 (人)



NexTone発足10周年



おかげさまで当社は、2026年2月1日をもちまして発足10周年を迎えることとなりました。
これもひとえに、株主の皆様をはじめ、お取引先様、そして全ての関係各位の温かいご支援、
ご愛顧の賜物と心より深く感謝申し上げます。

【NexTone発足10周年記念動画】『10th anniversary symphony』

動画はコチラ

https://www.youtube.com/watch?v=wen_cMiN7R4



【オリコンニュース トップインタビュー】 代表取締役CEO 阿南雅浩

大切なのは「エージェントに徹し、権利者の意向を柔軟に反映させること」10年の歩みと著作権管理の現状

記事はコチラ

<https://www.oricon.co.jp/special/73984/>

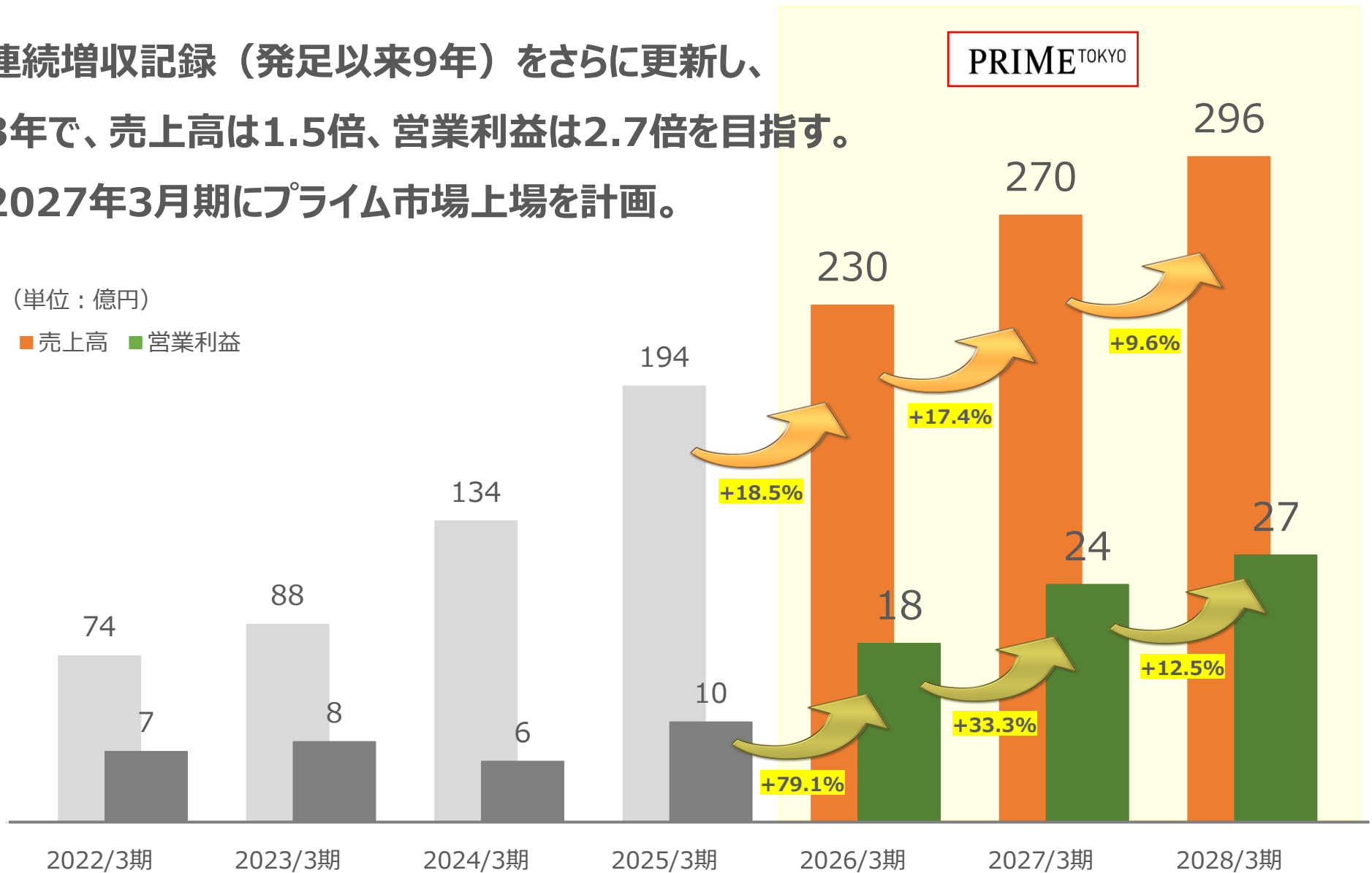
中期業績計画（2026/3期～2028/3期）

中期業績計画（連結）（2026年3月期～2028年3月期）

連続増収記録（発足以来9年）をさらに更新し、
3年で、売上高は1.5倍、営業利益は2.7倍を目指す。
2027年3月期にプライム市場上場を計画。

（単位：億円）

■ 売上高 ■ 営業利益



中期業績計画（セグメント別）

(億円)	2025/3期	2026/3期		2027/3期		2028/3期	
		計画	前期比増減率	計画	前期比増減率	計画	前期比増減率
売上高	194.1	230	+ 18.5%	270	+ 17.4%	296	+ 9.6%
著作権管理事業	15.2	19.2	+ 26.3%	22.6	+ 17.7%	24.8	+ 9.7%
DD事業	96.8	125.3	+ 29.4%	144.2	+ 15.1%	165.1	+ 14.5%
音楽配信事業	75.8	75.1	▲0.9%	71.3	▲5.1%	67.3	▲5.6%
ビジネスサポート事業	14.9	26.3	+ 76.5%	39.8	+ 51.3%	48.1	+ 20.9%
調整額	▲8.7	▲15.9	—	▲7.9	—	▲9.3	—
販管費	38.2	43	+ 12.6%	44	+ 2.3%	46	+ 4.5%
人件費	23.5	26	+ 10.6%	27	+ 3.8%	29	+ 7.4%
システムその他	14.6	17	+ 16.4%	17	±0	17	±0
営業利益	10.0	18	+ 79.1%	24	+ 33.3%	27	+ 12.5%
著作権管理事業	6.9	8.9	+ 29.0%	11.1	+ 24.7%	12.3	+ 10.8%
DD事業	9.6	12.5	+ 30.2%	13.6	+ 8.8%	15.4	+ 13.2%
音楽配信事業	13.3	14.8	+ 11.3%	14.6	▲1.4%	13.9	▲4.8%
ビジネスサポート事業	▲4.2	▲1.8	—	2.5	—	4.1	+ 64.0%
調整額	▲15.6	▲16.4	—	▲17.8	—	▲18.7	—
営業利益率	5.2%	7.8%	+ 2.6pt	8.9%	+ 1.1pt	9.1%	+ 0.2pt
著作権管理作品数（万曲）	69.1	79	+ 14.3%	91	+ 15.2%	104	+ 14.3%
取扱原盤数（万原盤）	147.0	175	+ 19.0%	200	+ 14.3%	225	+ 12.5%

経営上重視している経営指標

事業KPI

◆ 著作権管理事業の取扱高（%）

目標：伸長率10%以上

2025年3月期：24.5%増

◆ 著作権使用料 徴収額シェア（%）

目標：中期的に10%、長期的に50%

2024年3月期：7.8%

◆ 著作権管理楽曲数

目標：每期10万曲以上増加

2025年3月期：17万曲増、69.1万曲

◆ 取扱原盤数（NexTone+レコチョク+エッグス）

目標：每期23万原盤以上増加

2025年3月期：20.7万原盤増、147.0万原盤

財務KPI

◆ 売上高（金額）

目標（2028/3期）：296億円以上

2025年3月期：194.1億円

◆ 対前期売上高（%）

目標（2028/3期）：伸長率10-20%

2025年3月期：44.6%

◆ 営業利益率（%）

目標（2028/3期）：9%以上

2025年3月期：5.2%

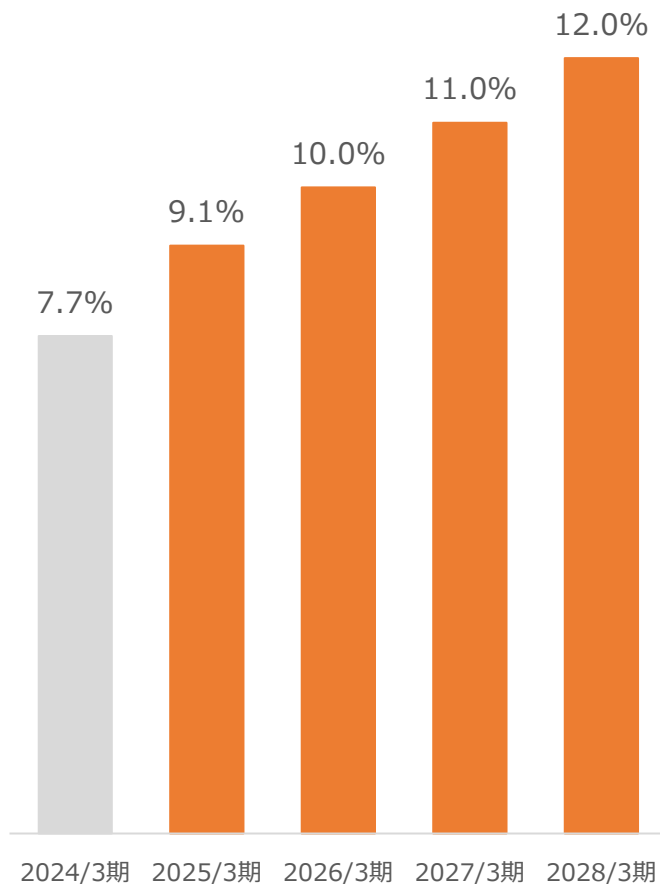
◆ 経常利益の増加（金額）

**目標（2026年3月期まで）：プライム基準充足
（2年で合計25億円）**

2025年3月期：10.2億円

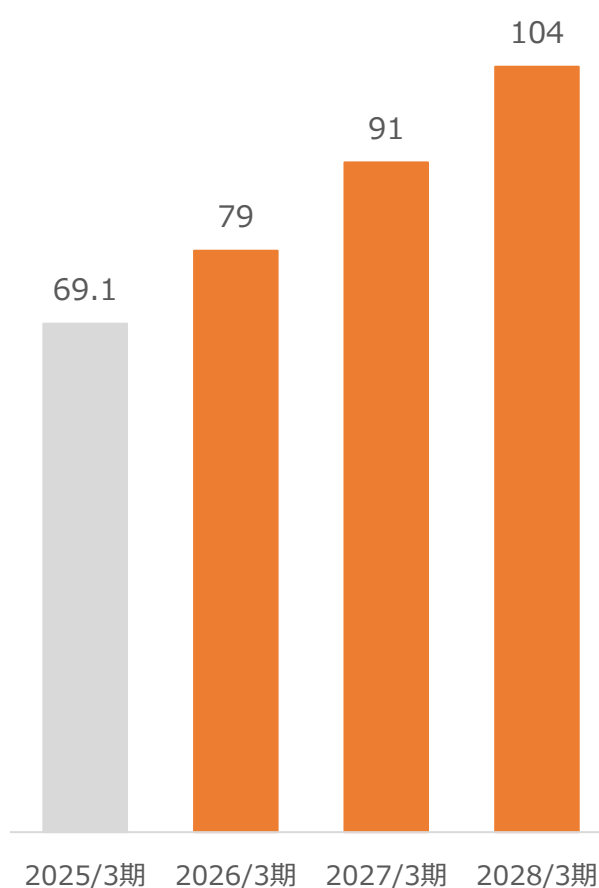
事業KPIの拡大計画

◆ 著作権使用料 徴収額シェア (%)
目標：中期的に10%、長期的に50%



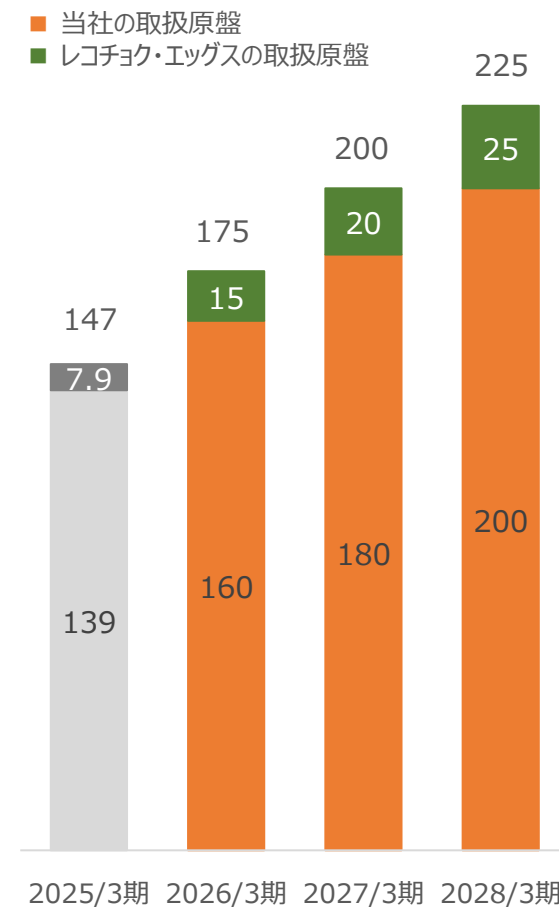
◆ 著作権管理楽曲数
目標：每期10万曲以上増加

(単位：万曲)



◆ 取扱原盤数
目標：每期23万原盤以上増加

(単位：万原盤)



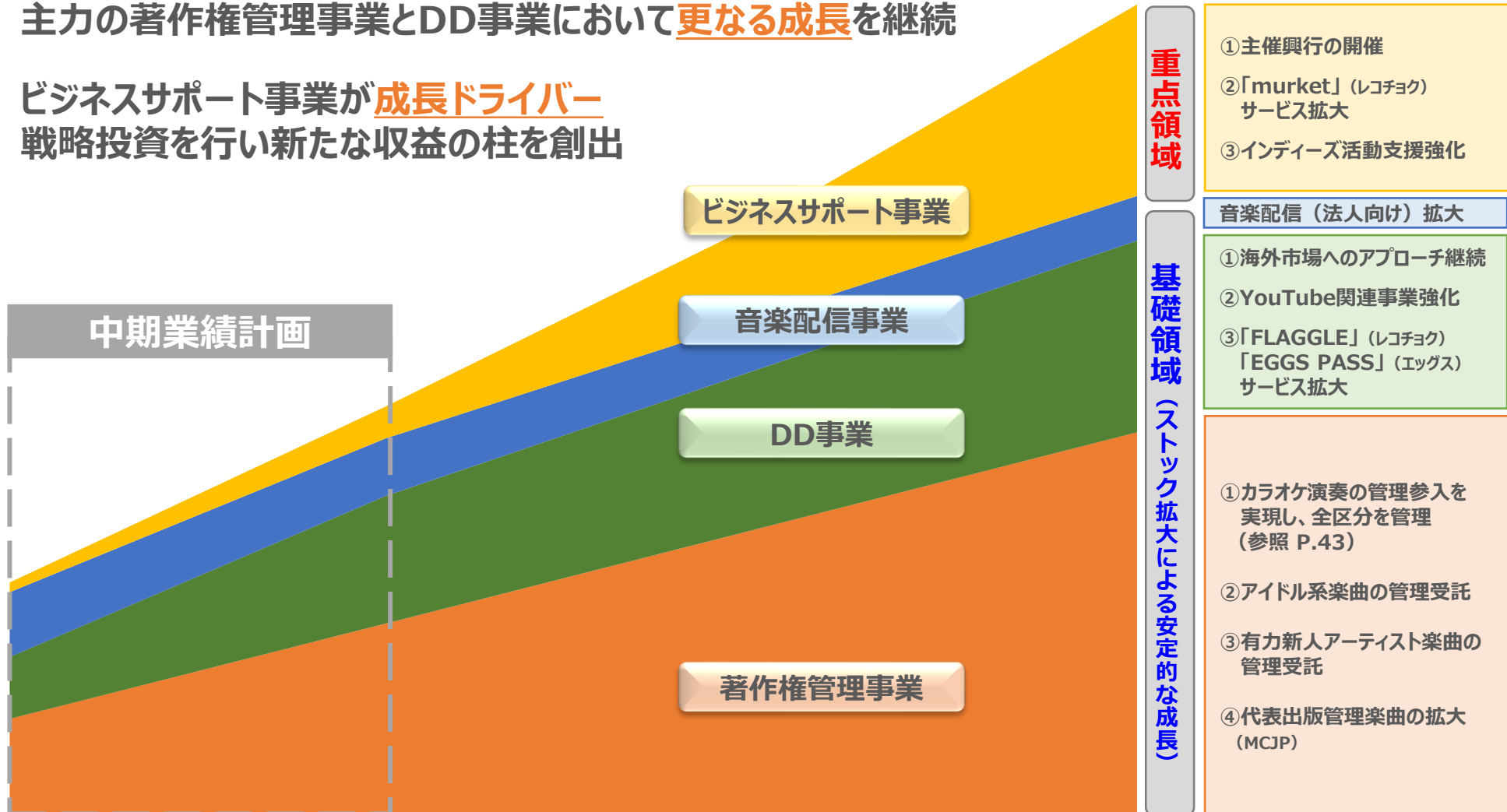
※ 2025/3期以降のシェアは、JASRACの著作権使用料徴収額が前期比6%拡大することを仮定して算出しております

今後の成長戦略

事業成長イメージ（取扱高ベース）

主力の著作権管理事業とDD事業において更なる成長を継続

ビジネスサポート事業が成長ドライバー
戦略投資を行い新たな収益の柱を創出



サステナビリティの取り組み／人的資本方針

サステナビリティポリシー

当社グループは次代を奏でるオンリーワン・エージェントとして、音楽著作権の管理と利用促進を推進する事業や権利者・クリエイターをサポートする事業を継続的に拡大し、適正な徴収・分配・支援を行うことで、豊かな社会の実現、音楽文化・音楽産業のより一層の発展、持続可能でより良い社会の実現に貢献します。

Environment

環境

Social

社会

Governance

ガバナンス

マテリアリティ

DXの推進	音楽文化・音楽産業の持続的な発展	信頼性の高いシステム
	人材の育成・活用	ガバナンスの強化

人的資本に関する指標（2025年3月末時点）

指標	単体	連結	目標
女性管理職比率	21.1%	22.5%	2026年度 30%以上
男女間賃金格差（※1）	69.6%	69.9%	2026年度 75%以上
男性育児休業取得率	100%	66.7%（※2）	75%以上
有給休暇消化率（※3）	48.5%	38.3%	2026年度 60%以上

- （※） 1. 男女間賃金格差算出において、平均給与等の算出対象から休職者および臨時従業員（週20時間未満勤労者）を除外しております。
2. 一部のグループ会社においては独自にフレックス制度や、在宅勤務等の柔軟な勤務制度を採用するなど、各社が育児・仕事の両立が可能な働き方を推奨しております。
3. 有給休暇取得日数には、前事業年度有給休暇の繰越分を取得した分も含めております。

APPENDIX NexTone会社概要

会社概要

社 名	株式会社NexTone [英語名：NexTone Inc.]			
代 表 者	代表取締役CEO 阿南 雅浩			
設 立 年 月	2000年9月（2016年2月、イーライセンスとジャパン・ライツ・クリアランスが合併してNexToneに商号変更）			
本社所在地	渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー10F			
資 本 金	1,218百万円（2025年3月末）			
役 員 構 成	代表取締役CEO 代表取締役COO 常務取締役 取締役 社外取締役 社外取締役 社外取締役 社外取締役	阿南 雅浩 荒川 祐二 渡邊 史弘 足立 大輔 阿部 優子※ 小坂 準記※ 尾木 敦子※ 田村 優※	常勤監査役 社外監査役 社外監査役	渡辺 和敏 小林 伸之※ 大嶋 敏史※ ※ 当社は、阿部優子、小坂準記、尾木敦子、田村優、小林伸之及び大嶋敏史の6名を株式会社東京証券取引所が定める独立役員として指定しております。
事 業 内 容	著作権管理事業／DD事業／音楽配信事業／ビジネスサポート事業			
売 上 規 模	連結：19,412百万円（2025年3月期）			
従 業 員 数	連結：308名、単体：117名（2025年3月末）※アルバイトを除く			
総 資 産	14,831百万円（2025年3月末）			
グループ会社	株式会社エムシージェイピー、株式会社NexToneシステムズ、株式会社レコチョク、株式会社エッグス			

- ✓ レコチョクとの資本業務提携によって、将来的に音楽著作権管理にとどまらない総合音楽エージェントとして目指すべき理想像を明文化し、存在意義を見直すことを目的として2024年4月1日付で企業理念を改定。

企業理念

For the Future of Music

～音楽文化・音楽産業の発展のために、私たちは挑戦を続けます～

ビジョン

次代を奏でるオンリーワン・エージェント

当社グループの事業のマトリックス図



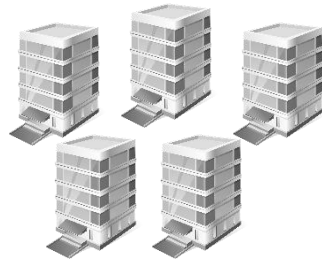
創業の経緯（沿革）

- ✓ 「著作権等管理事業法」施行により、デジタル化の進展を想定した多数の民間企業が当事業に参入。
- ✓ 当社はその中の2社「(株)イーライセンス」・「(株)ジャパン・ライツ・クリアランス」が合併統合し発足。
- ✓ 参入障壁は非常に高く、各社実質撤退。
現在は、JASRAC に対抗する唯一の民間企業として活動中。

「低廉な手数料」
「楽曲のボリュームと継続的な
楽曲提供が必要」
「専門知識・システム投資が必要」

実質撤退へ *1

他社(20数社)



音楽著作権等管理事業に
多くの民間会社が新規参入

2000年11月
「著作権等管理事業法」*2 成立

一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）

*1 企業登録は残っているものの、楽曲管理はJASRACに既に移管している状態

*2 「著作権等管理事業法」成立前は、一般社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)が法律「著作権ニ関スル仲介業務ニ関スル法律」で唯一認可された管理事業者

2023年9月

(株)レコチョク

資本業務提携

2016年2月

当社

NexTone

合併・事業統合

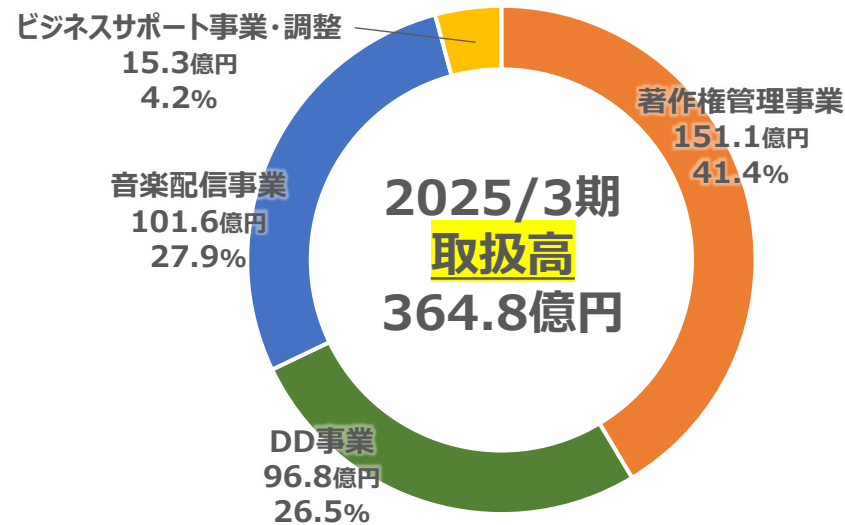
2000年9月

(株)イーライセンス

2000年12月

(株)ジャパン・ライツ・クリアランス

- ✓ 主幹事業である「著作権管理事業」の他、「DD事業」「音楽配信事業」「ビジネスサポート事業」を展開し、音楽産業における権利者と利用者の双方を幅広くサポート。

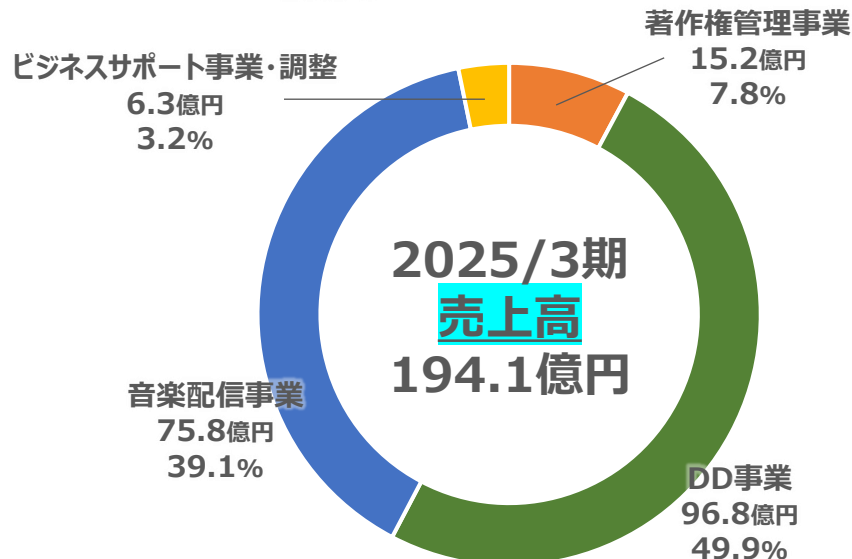


■ 著作権管理事業

著作権者から委託を受けた音楽著作物の利用許諾と、使用料の徴収・分配業務、音楽出版社業務の代行サービス

■ DD事業

国内外の音楽配信事業者に向けた音楽・映像コンテンツの供給、YouTubeにおけるコンテンツマネージメントサービス



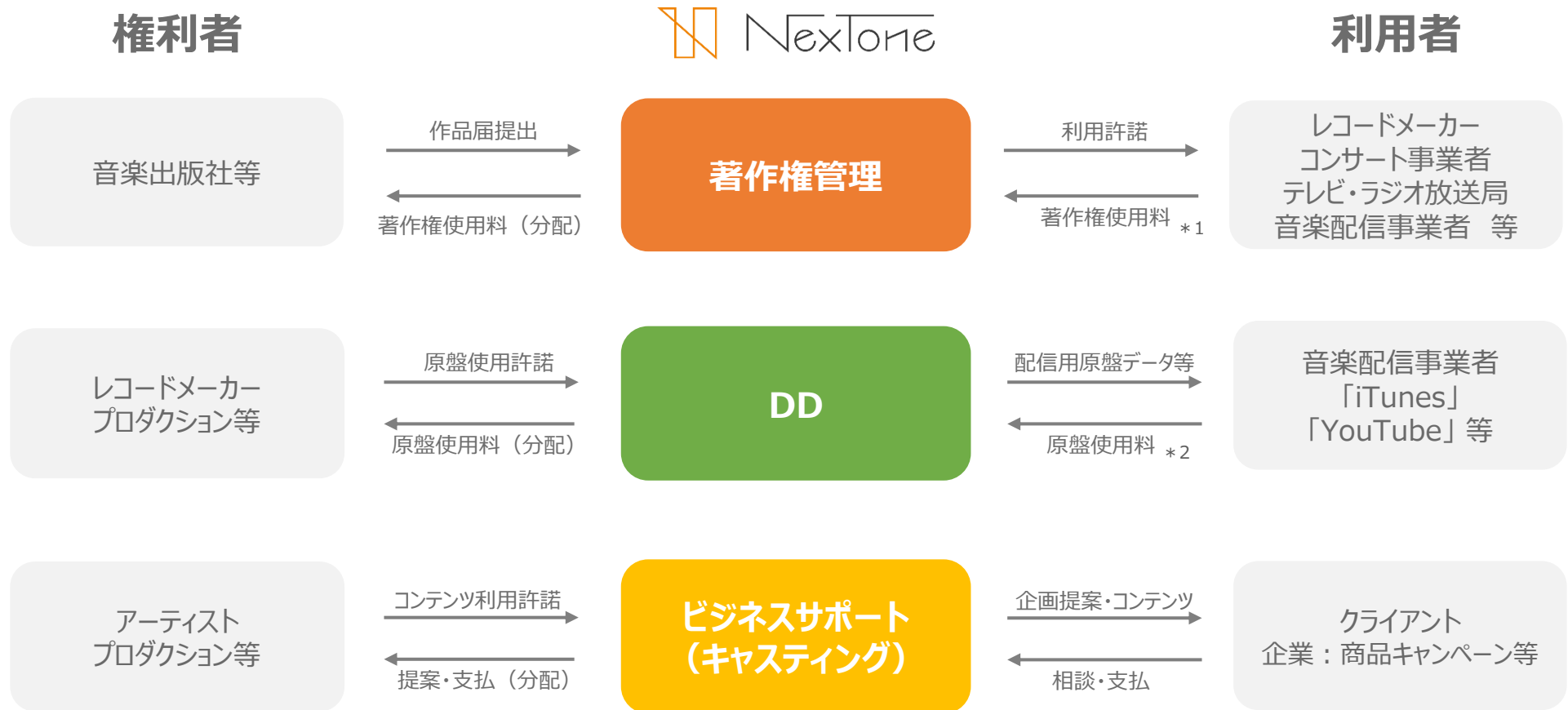
■ 音楽配信事業

音楽配信（個人向け）、音楽配信（法人向け）

■ ビジネスサポート事業

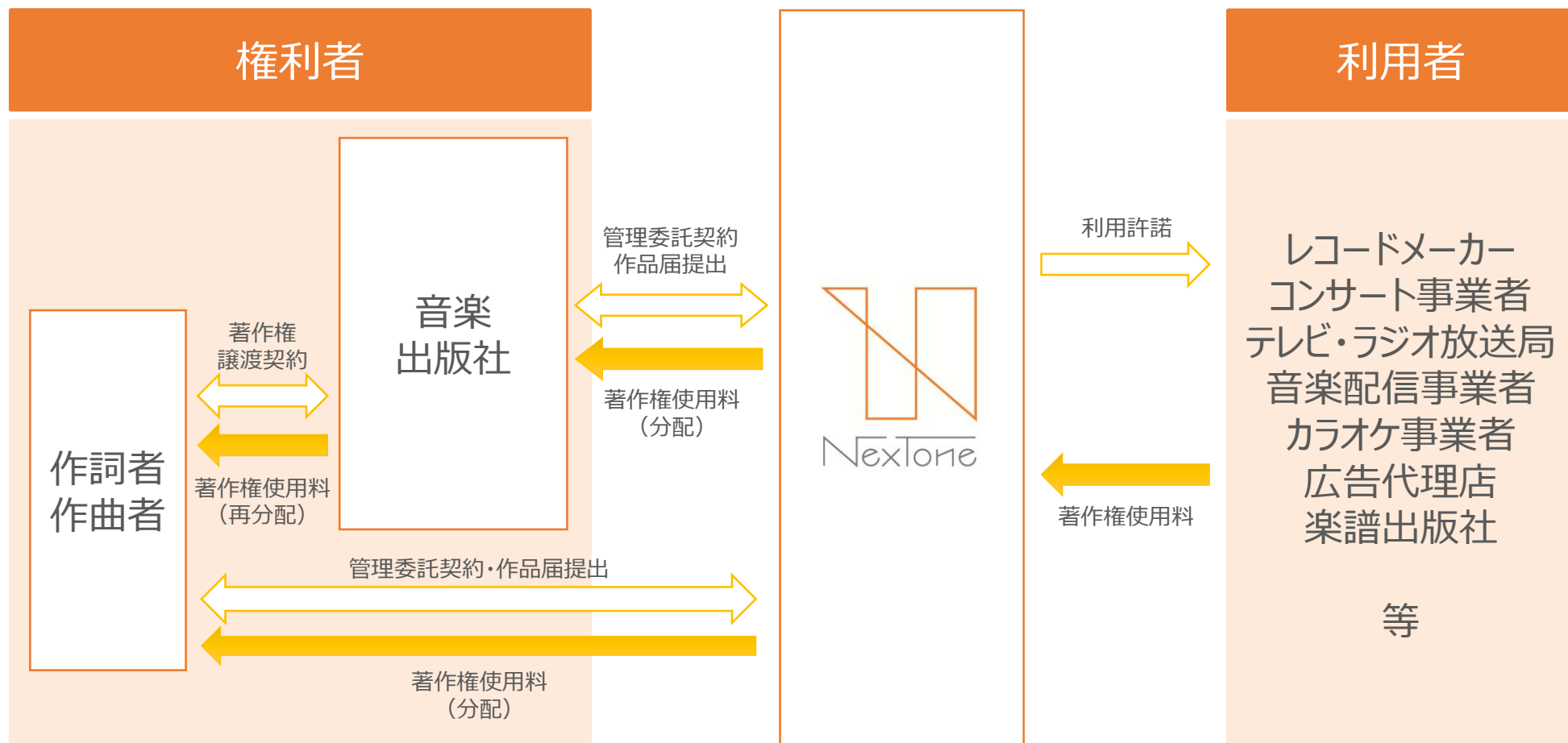
キャスティング事業、リユースプロダクト事業、システム開発・保守運用事業、ソリューション事業、エージェント事業等

- ✓ 当社は、権利者と利用者との仲介エージェントとして機能。
- ✓ 基本的に利用者より使用料を徴収し、コンテンツホルダー他に分配するストック型ビジネスを展開。



*1 徴収金額のうち当社の手数料分のみを売上計上
 *2 徴収金額を売上計上

当社の著作権管理事業の基本的な流れ



著作権管理事業

【管理対象】

楽曲

作家によって
制作された
音楽著作物

「歌詞」「メロディ」



管理

NextTone



利用者である
「レコードメーカー」
「コンサート事業者」
「テレビ・ラジオ放送局」
「音楽配信事業者」
「カラオケ事業者」等に
音楽著作物の利用を
許諾し、使用料を徴収・分配

DD事業

【管理対象】

原盤

アーティストによって
実演収録された
オリジナルコンテンツ
「音源・映像データ」



管理

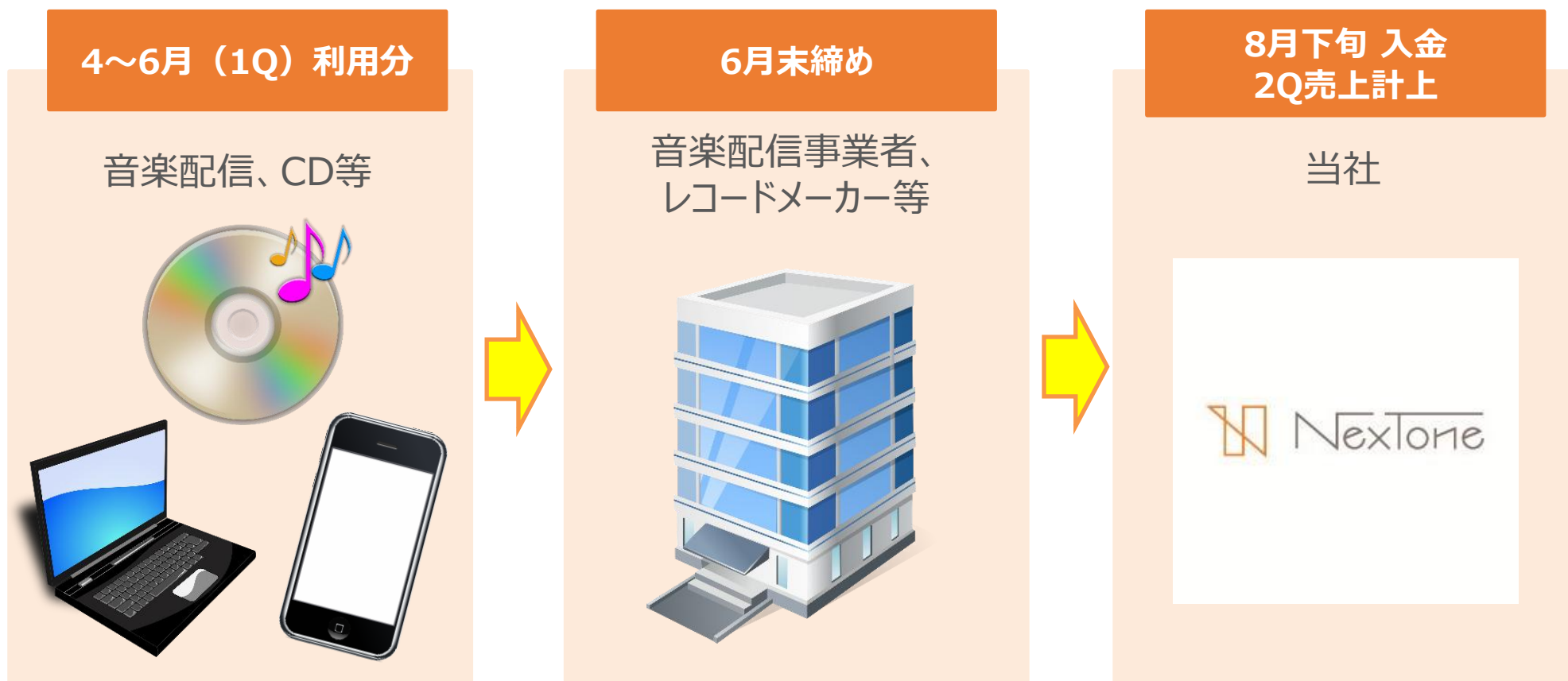
NextTone



オリジナルコンテンツを
国内・海外の
音楽配信サービス
「iTunes」
「YouTube」
「amazon music」
「Spotify」
等に供給し、使用料を
徴収・分配

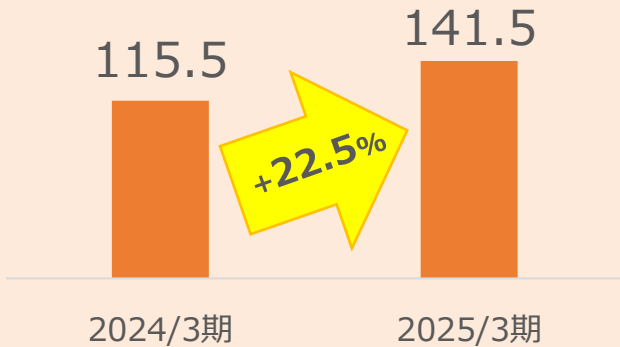
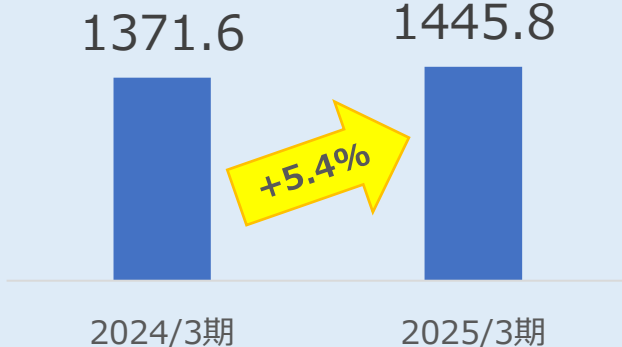
著作権管理事業：利用と売上計上のタイムラグ

- ✓ 配信、録音、出版、貸与等は下図の通り、利用時期と売上計上時期に1 Q分のタイムラグが存在。
- ✓ 放送、業務用通信カラオケは2 Q分のタイムラグが存在。



【当社の著作権管理の特徴】

- ✓ 権利者の意向を最大限取り入れた柔軟な管理。
- ✓ 管理楽曲の詳細な利用状況が分かる透明性の高い分配明細の他、分配アナリティクスツールを提供。

	当社	JASRAC
著作権使用料徴収額 (2025/3期 実績)	141.5億円	1,445.8億円
著作権使用料徴収額 推移	 <p>115.5 → 141.5 +22.5%</p> <p>2024/3期 2025/3期</p>	 <p>1371.6 → 1445.8 +5.4%</p> <p>2024/3期 2025/3期</p>
管理手法	主にデジタル管理	アナログ／デジタル管理の混在
著作権等の管理範囲	「社交場・カラオケ演奏等」以外	全領域
委託者（著作権者） との契約形態	委託契約 ＜委任／取次＞	信託契約 ＜著作権はJASRACに移転＞
権利者の意思反映	権利者裁量により 柔軟に料率変更が可能	権利者の意思が反映し難い

- ✓ 2000年の法改正により、20数社程度が新規参入を表明。
- ✓ しかし、当社以外の新規参入社は全て実質事業を縮小。現在は、JASRACと当社の実質2社体制。
- ✓ 日々の膨大な著作権利用に係るデータや情報のシステム管理と具体的料金徴収及び分配金支払業務はかなりの負担。新規参入障壁は高い。

著作権管理事業への参入障壁

① 著作権管理は手数料5.0～9.8%の低収益事業

② 日々の膨大かつ複雑な著作権利用に係るデータや情報のシステム管理能力が必要

③ 有力著作権者からの安定的かつ継続的な楽曲管理委託が必要



2000年の法改正で
20数社が登録するも、
現在は実質上の撤退状態



当社は音楽著作権管理事業における
「唯一」の民間企業
JASRACと当社の実質2社体制へ

特徴と強み② 利用促進のプロモーター

- ✓ 楽曲の利用状況データは利用促進への重要なアセットとしても活用。
- ✓ データを活用した音楽配信事業者へのコンテンツ供給（DD）やビジネスサポートにより、楽曲の浸透速度を加速。

音楽著作権の管理のみならず、利用促進まで手がけるオンリーワン・エージェント



VTuberグループ「hololive（ホロライブ）」との取組事例



著作権管理

音楽出版社
業務代行

DD

CRIP
YouTubeにおける音楽
カバー動画の収益向上施策

当社管理区分

- ✓ 音楽著作権は、4つの支分権＜(1)～(4)＞と9つの利用形態＜(5)～(13)＞により形成。*
- ✓ 当社は2022年4月時点で「(6)社交場・カラオケ演奏等」を除くすべての領域を管理。

(1) 演奏権等	(2) 録音権等	(3) 出版権等	(4) 貸与権
<div>(5) 上映・BGM等</div> <div>(6) 社交場・カラオケ演奏等</div>	<div>CDの複製等</div> <div>(7) 映画への録音</div> <div>(8) ビデオグラム等への録音</div> <div>(9) ゲームへの録音</div> <div>(10) 広告目的で行う複製 テレビ・ラジオCMへの複製 インターネットCMへの複製 広告印刷物への歌詞の複製 等</div>	<div>歌詞集の印刷 楽譜の印刷 等</div>	<div>CDのレンタル</div>
(11) 放送・有線放送	テレビ・ラジオでの放送 等		
(12) インタラクティブ配信	スマートフォン・パソコンへの配信 等		
(13) 業務用通信カラオケ	カラオケ施設での歌唱のための複製、公衆送信 等		

*2022年4月に「(1)演奏権等」の区分に、「(5)上映・BGM等」「(6)社交場・カラオケ演奏等」を新設。

APPENDIX レコチョクグループ会社概要

レコチョク 会社概要



会社名	株式会社レコチョク
ミッション	音楽市場の最大活性化
ビジョン	人と音楽の新しい関係をデザインする。
設立日	2001年7月
資本金	100百万円
主要株主	<ul style="list-style-type: none">・株式会社NexTone・エイベックス・エンタテインメント株式会社・株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント・ビクターエンタテインメント株式会社
代表	代表取締役社長 板橋 徹
取扱高/売上高	取扱高：126億円 / 売上高：86億円（2025年3月期） ※エッグスとの連結
従業員数	191名（連結）（2025年3月末時点） ※エッグスとの連結
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・音楽配信事業（個人向け、法人向け）・ソリューション事業
関係会社	<ul style="list-style-type: none">株式会社エッグス・インディーズアーティスト活動支援事業を展開

会社名	株式会社エッグス
ミッション	多様な音楽があふれる未来をつくる。
ビジョン	アーティストとファンに一つでも多くの出会いを。
設立日	2019年12月
資本金	100百万円
主要株主	株式会社レコチョク
代表	代表取締役 柴崎 栄太郎
取扱高/売上高	売上高：803百万円（2025年3月期）
従業員数	20名（2025年3月末時点）（レコチョクからの出向者を含む）
事業内容	インディーズアーティスト活動支援事業 ・DD事業 ・エージェント事業

音楽配信 (個人向け)

アラカルト



ストリーミング



音楽配信 (法人向け)



WEDDING MUSIC BOX
by USEN

ソリューション (権利者向けビジネス支援)

直販ビジネス支援



配信・流通支援



DX/運用等 業務支援

エッグス (インディーズ活動支援)

メディア



DIY向け 配信・流通支援



グッズ販売/ライブ/ライセンス エージェント

グループ
セグメント

音楽配信

DD

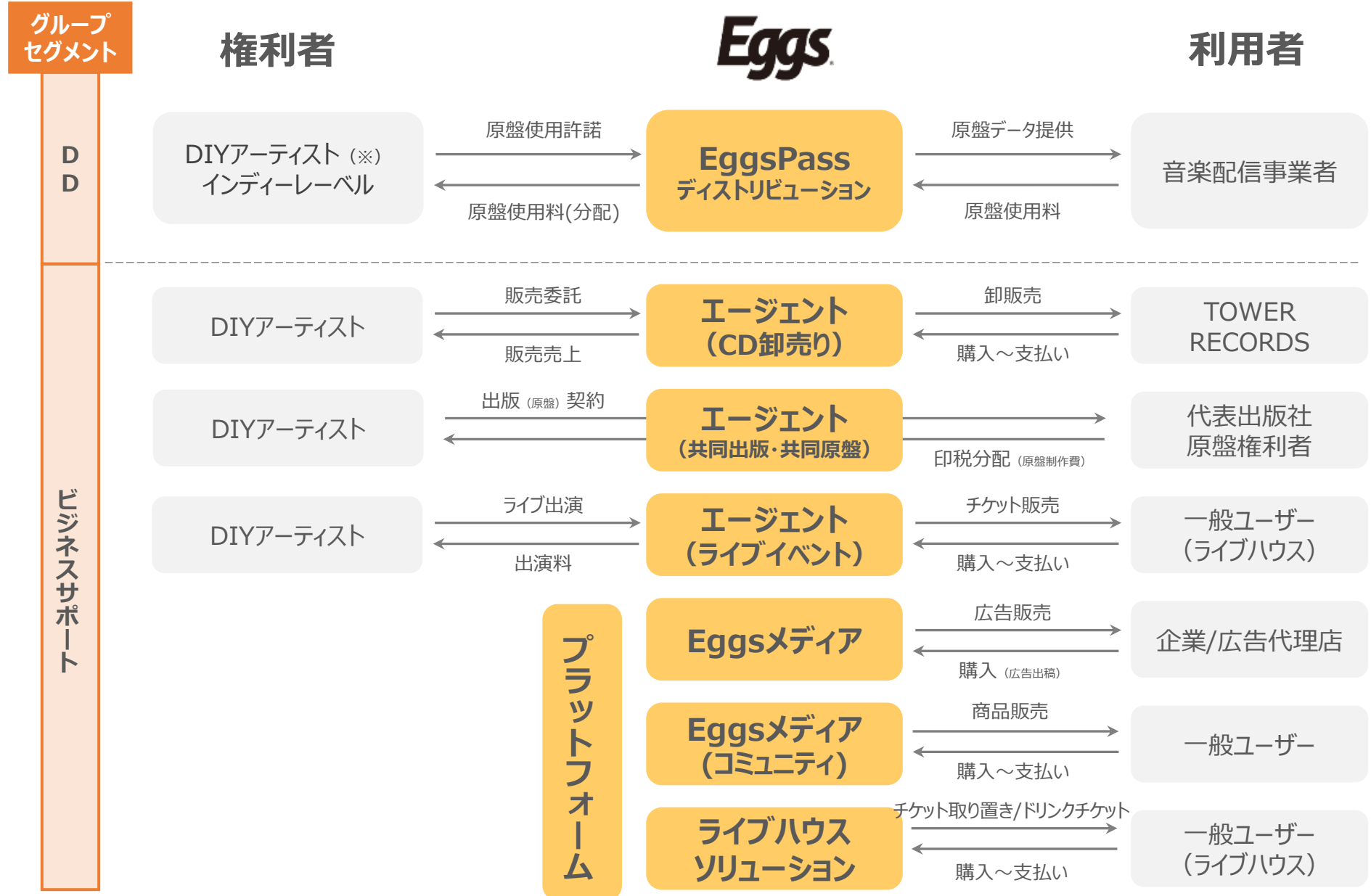
ビジネスサポート

権利者

LYCORIS

利用者

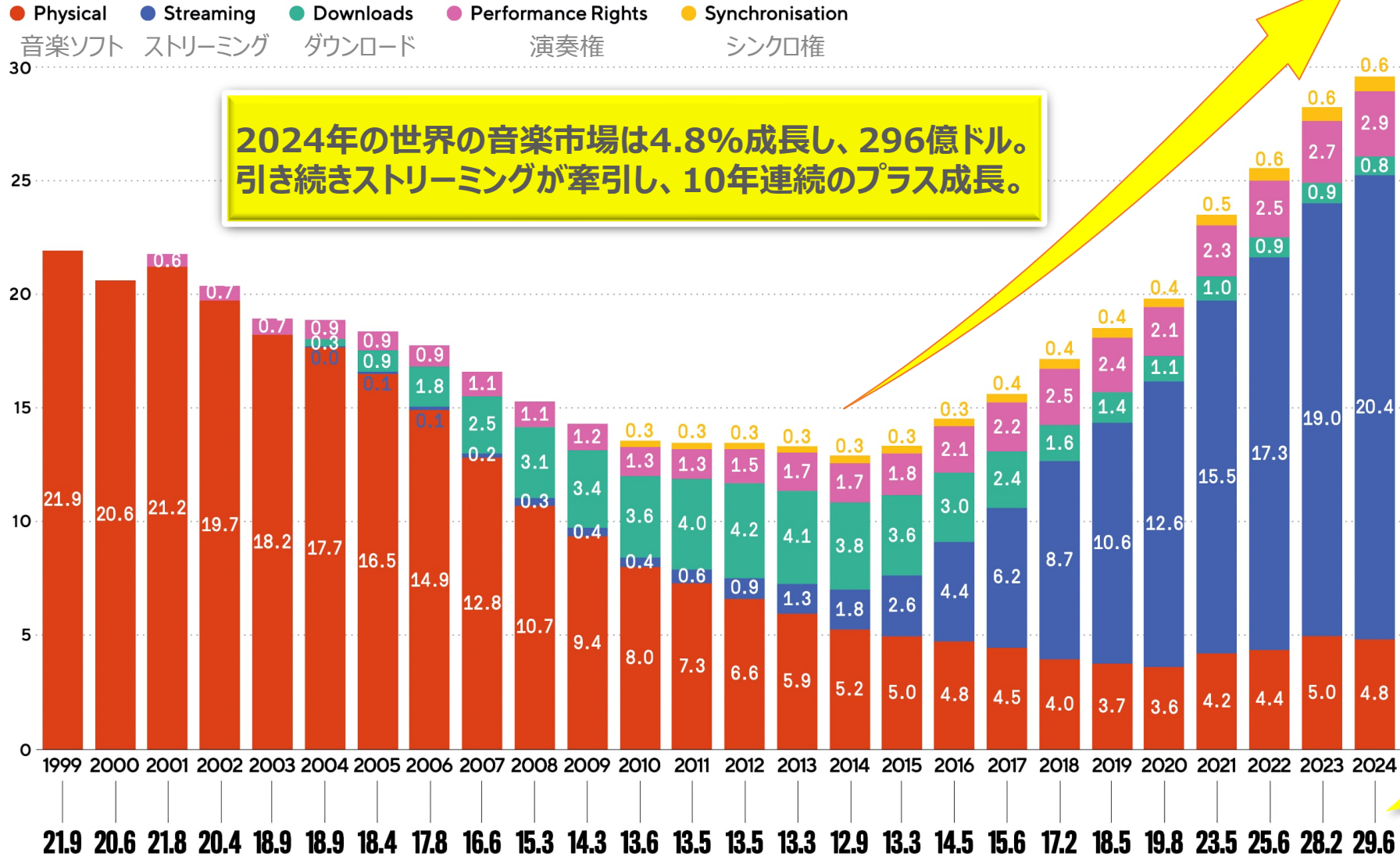




APPENDIX 関連市場データ

世界の音楽市場 売上推移

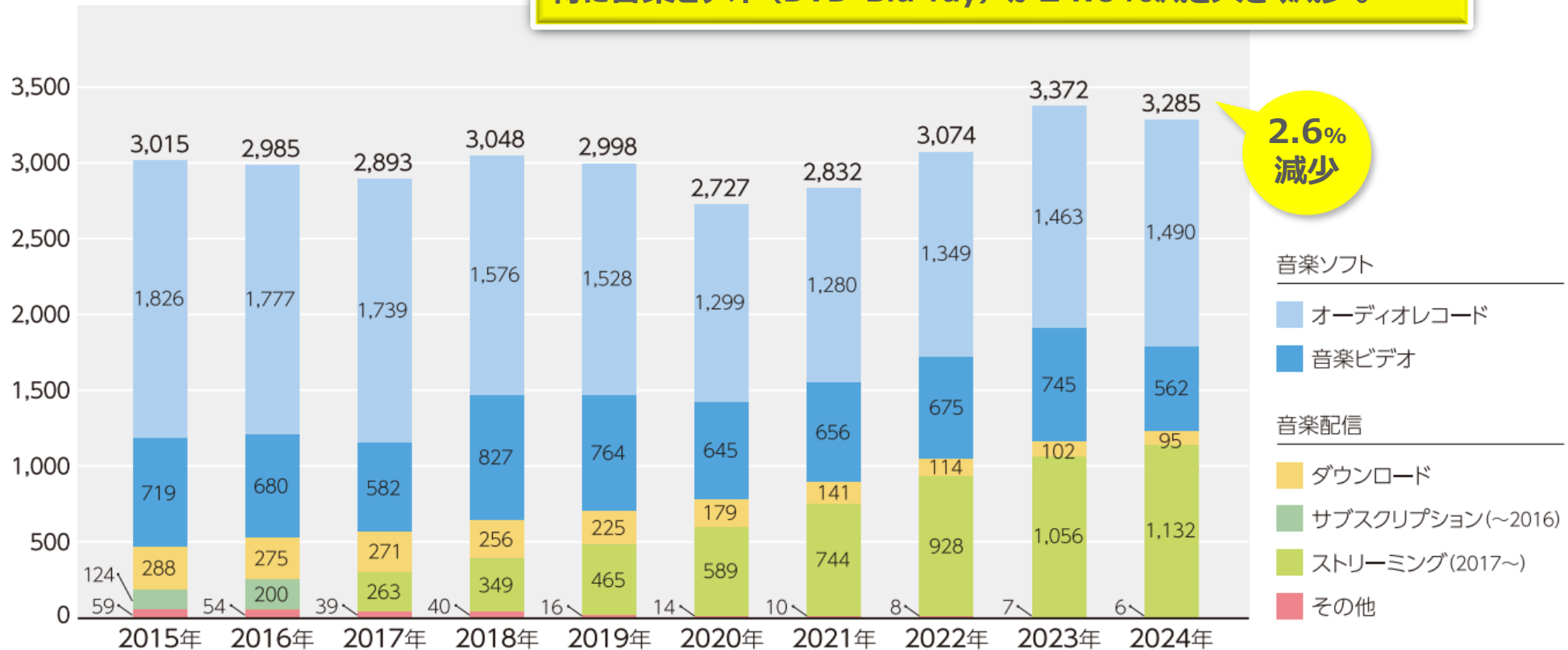
Global recorded music industry revenues 1999-2024 (US\$ billions)



国内の音楽ソフト生産・音楽配信売上実績金額推移

(億円)

音楽配信売上高は5.8%増の1,233億円となり11年連続増加。
音楽ソフト売上高は7.1%減の2,052億円。
特に音楽ビデオ（DVD・Blu-ray）が24.6%減と大きく減少。



- 備考
1. ベース：音楽ソフト…生産実績、音楽配信…売上。
 2. 「その他」には「Master ringtones (～2021)」、「Ringback tones (～2021)」が含まれる。
 3. 2017年より音楽配信売上実績の集計区分を変更。「サブスクリプション」は2016年までの集計区分。

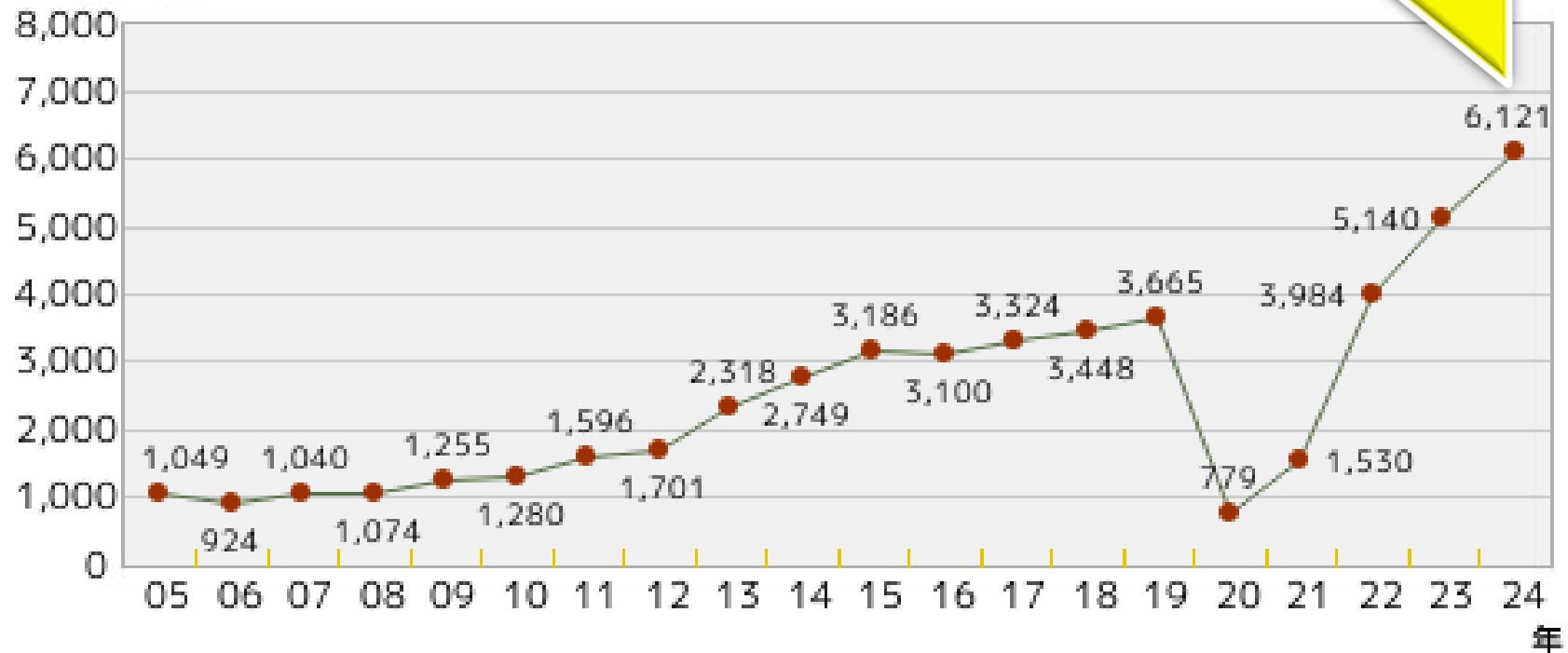
一般社団法人日本レコード協会公表情報

国内の音楽ライブ年間売上実績推移

新設アリーナの稼働による公演数・動員数の増加や、海外アーティストの大規模公演の開催による動員数増加等を背景に大幅拡大。

年間売上額

売上額(億円)

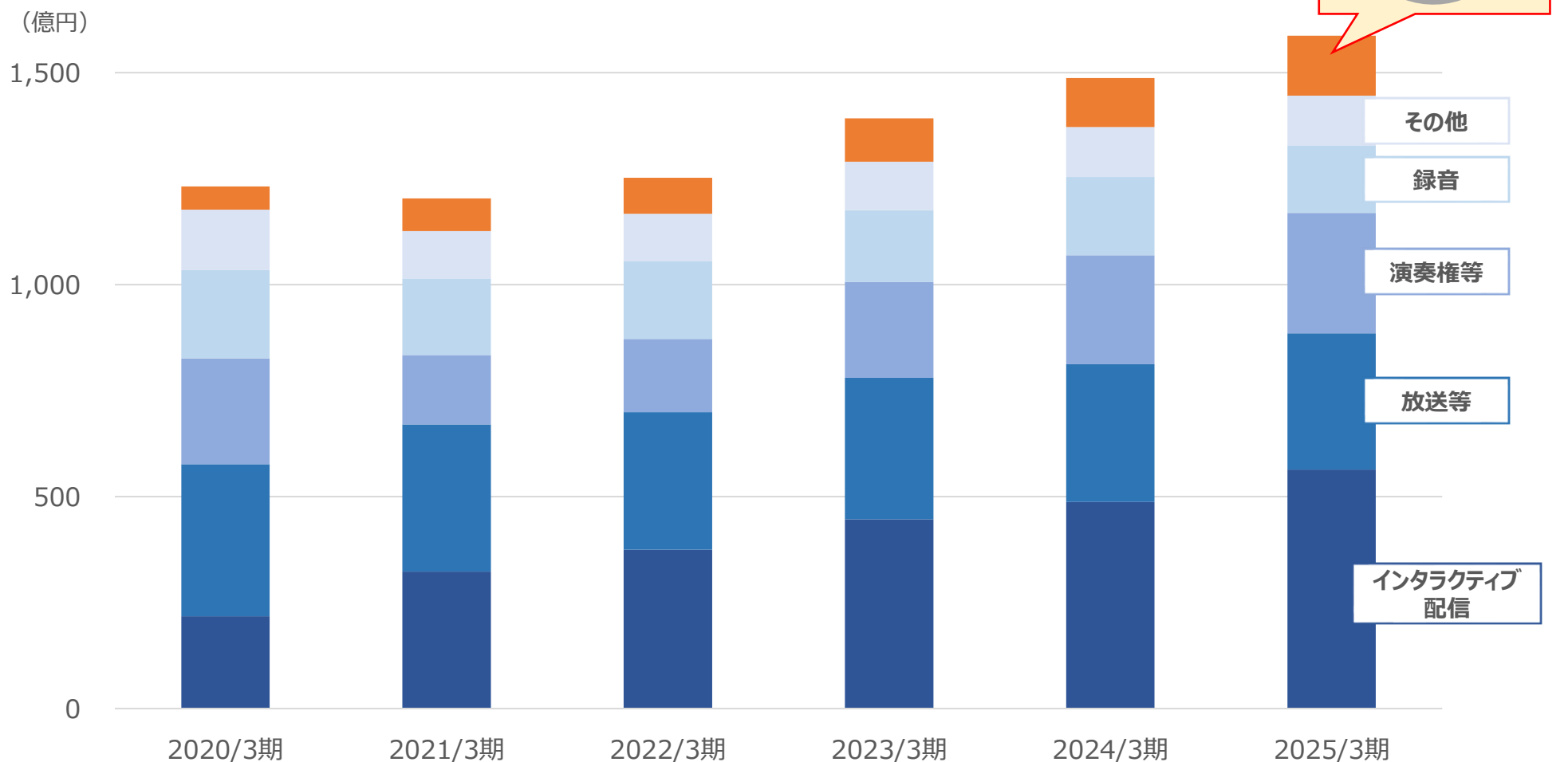


一般社団法人コンサートプロモーターズ協会公表情報

音楽著作権管理市場 使用料徴収額推移

✓ コロナ禍以降、ストリーミング配信サービスの拡大を背景に緩やかに増加基調。

当社徴収額： ■ JASRAC徴収額： ■ インタラクティブ配信 ■ 放送等 ■ 演奏権等 ■ 録音権等 ■ その他



計画に関する注意事項

本資料に記載されている業績計画等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

IRに関連する
Q&A一覧はこちら

